令和２年度（2020 年度）第１回　熊本市教育の情報化検討委員会

日時　令和２年（2020 年）８月 24 日（月）　13 時
場所　熊本市教育センター　３階第一研修室

次　第

１　開会

２　挨拶

３　報告
⑴　臨時休業中のオンライン授業の実施状況と現在の学校の取組状況について
⑵　タブレット端末１人１台の整備計画について

４　議事
⑴　タブレット端末１人１台を整備することによる「新しい学び」について
ア　１人１台端末時代に求められる授業の在り方
イ　具体的取組
ウ　効果検証

５　閉会

熊本市教育の情報化検討委員会運営要綱

制定　平成３１年４月１日教育長決裁
改正　令和　２年４月１日教育センター所長決裁

（趣旨）
第１条　熊本市附属機関設置条例（平成１９年条例第２号）第３条の規定に基づき、熊本市教育の情報化検討委員会（以下「検討委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（所掌事務）
第２条　検討委員会は、次に掲げる事項について審議する。
(1)　市立学校における情報通信機器の活用方法、実践の成果、課題及び改善方法等、教育の情報化の推進に関すること。
(2)　市立学校における情報通信機器の整備に関すること。
(3)　その他必要な事項に関すること。

（組織）
第３条　検討委員会は、委員１０名以内をもって組織する。
２　検討委員会の委員は、次に揚げる者のうちから教育委員会が委嘱する。
(1)　学識経験者
(2)　前号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者
３　委員の任期は、委嘱された日から同日の属する年度の３月末日とし、再任されることを妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）
第４条　検討委員会に委員長及び副委員長を各１名置き、委員の互選により定める。
２　委員長は、検討委員会を主宰し、会務を統括する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）
第５条　検討委員会は、委員長が召集し、議長を務める。
２　会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
３　会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。
４　委員長は、必要に応じ会議に委員以外の者の出席を求め、その者の意見を聴くことができる。

（事務局）
第６条　検討委員会の庶務を処理するため、事務局を教育委員会事務局学校教育部熊本市教育センターに置く。

（その他）
第７条　この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に必要な事項は委員長が定める。

附　則
この要綱は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、令和２年４月１日から施行する。

熊本市教育の情報化検討委員会委員

1	学識経験者	中川　一史	放送大学　教授
2	学識経験者	塚本　光夫	熊本大学　教授
3	学識経験者	前田　康裕	熊本大学　准教授
4	学識経験者	飯村　伊智郎	熊本県立大学　教授
5	PTA	松島 雄一郎	熊本市 PTA 協議会 会長
6	中学校	三角　貴志子	白川中学校　教諭
7	小学校	柴田　祥	城東小学校　教諭

任　　期：令和 2 年 8 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで

城東小のタブレット活用

～休校期間中の取り組みと
今年度の取り組みについて～

熊本市立城東小学校
情報教育担当　　柴田　祥

休業期間中における
タブレット端末活用について

休業期間中の取り組み【活用の実際】

全学年でタブレット端末をはじめとした
情報機器を活用した取組を実施

【高学年】学校の端末を貸与
遠隔授業を実施

【中学年】学校の端末を貸与
遠隔授業を実施

【低学年】家庭の端末を活用
健康観察や担任との交流を実施

休業期間中の取り組み【活用の実際】

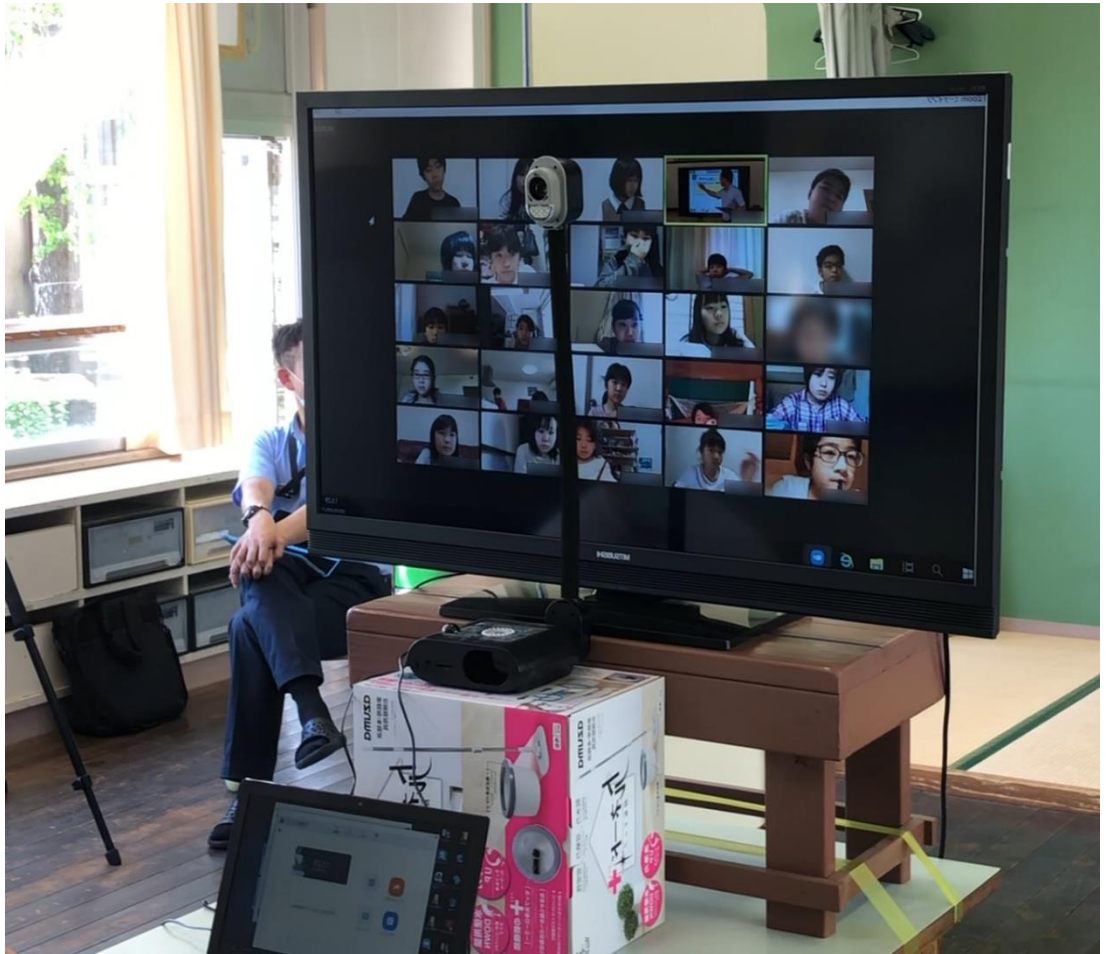
特設の簡易スタジオを設置

→いつでも遠隔授業の配信ができる環境の整備

休業期間中の取り組み【活用の実際】

特設の簡易スタジオを設置

→いつでも遠隔授業の配信ができる環境の整備



休業期間中の取り組み【活用の実際】

特設の簡易スタジオを設置

→いつでも遠隔授業の配信ができる環境の整備

めざす「オンライン授業の姿」の共有化

子どもの心と思考がオンラインである授業

タブレット端末の特性を生かした授業

休業期間中の取り組み【活用の実際】

オンライン授業を通した学びの変化

休業期間中の取り組み【活用の実際】

オンライン授業を通した学びの変化

→異見交流を通して、多様な学び方にふれることができた

【４月上旬の提出課題】

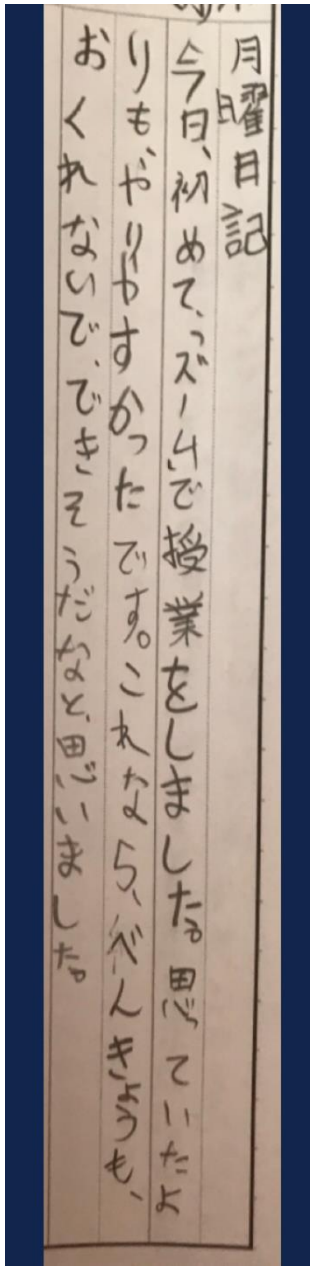
【５月中旬の提出課題】

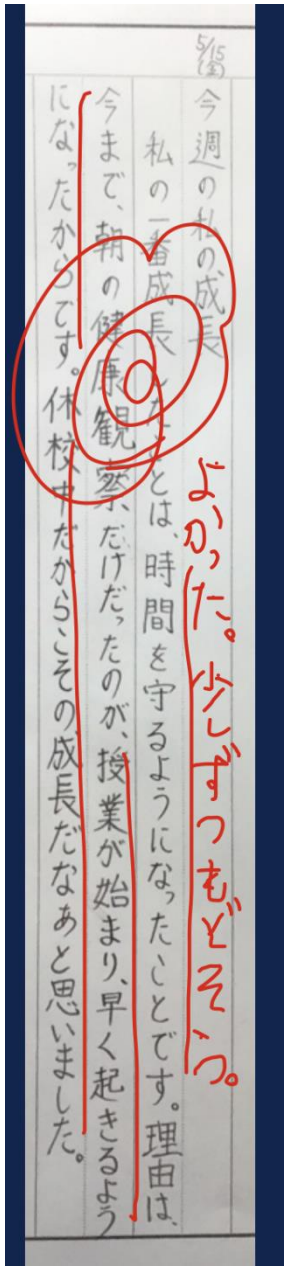
休業期間中の取り組み【活用の実際】

オンライン授業を受けた子どもたちの反応（一部）

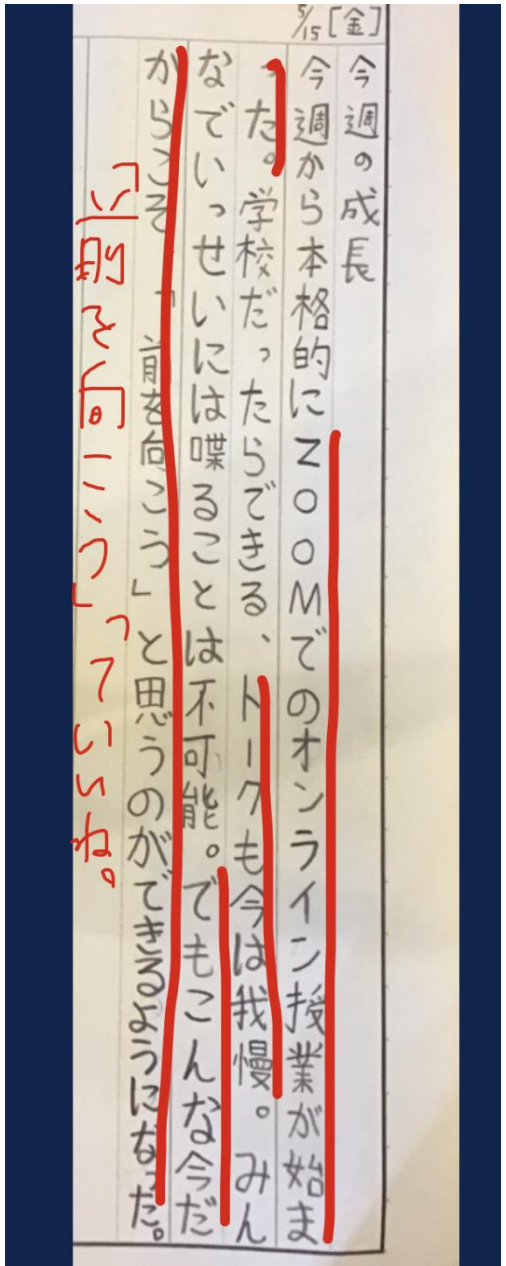
今週の私の成長
私の一番成長したことは 毎日必ずダブレットで勉強する事です。朝から昼まで時間を守って勉強することが出来ました。来週も頑張ります。

すばらしいです。来週もがんばりましょう!


月曜日記
今日、初めて、ズームで授業をしました。思っていたよりもやりやすかったです。これなら、べんきょうも、おくれないで、できそうだなと思いました。

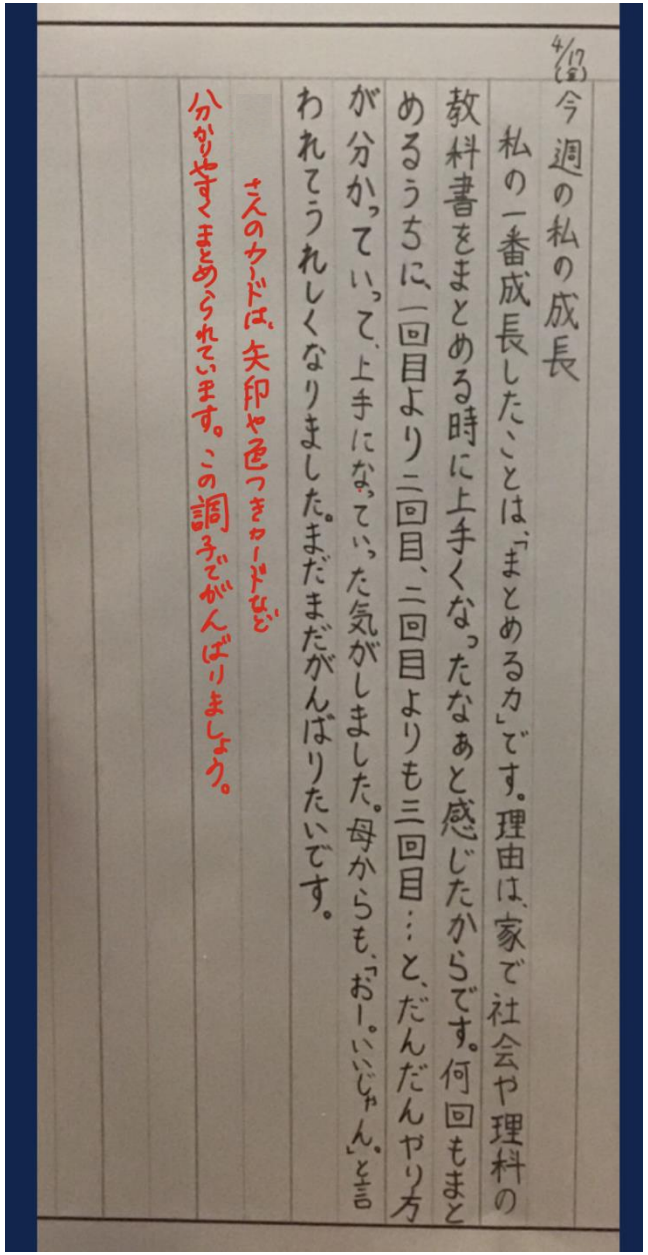

今週の私の成長
私の一番成長したことは、時間を守るようになったことです。理由は、今まで、朝の健康観察、だけだったのが、授業が始まり、早く起きるようになったからです。休校中だからこその成長だなあと思いました。

よかった。少しずつもどそう。


5/15[金]
今週の成長
今週から本格的にZOOMでのオンライン授業が始まった。学校だったらできる、トークも今は我慢。みんなでいっせいには喋ることは不可能。でもこんな今だからこそ「前を向こう」と思うのができるようになった。

「前を向こう」っていいね。

休業期間中の取り組み【活用の実際】



4/17(金)

今週の私の成長

私の一番成長したことは「まとめる力」です。理由は、家で社会や理科の教科書をまとめる時に上手くなったなぁと感じたからです。何回もまとめるうちに、一回目より二回目、二回目よりも三回目…と、だんだんやり方が分かっていって、上手になっていった気がしました。母からも「おー。いいじゃん。」と言われてうれしくなりました。まだまだがんばりたいです。

さんのカードは、矢印や色つきカードなど分かりやすくまとめられています。この調子でがんばりましょう。

この絵が聖徳太子！

飛鳥時代 ～7世紀ごろ～

【キーワード】
「聖徳太子」

【聖徳太子とは？】

・天皇の子として生まれた。
・20才の時に天皇の政治を助ける役職についた。
・蘇我氏とともに天皇中心の新しい国づくりにあたった。

【そのころの中国は…】

・国が分かれて争っていたが、589年に隋が中国を統一した。
・政治のしくみが整い、文化も栄えていた。

【聖徳太子が行ったこと】

1.「**冠位十二階**」を定める

（家柄に関係なく、能力や功績で役人を取り立てた。）

↓

2.「**十七条の憲法**」を定める

（政治を行う役人の心構えが書かれている。）

↓

3.「**遣隋使**」を送る

（小野妹子らを、使者として隋に送った。）

上の写真は、法隆寺！

↓

4.「**法隆寺**」を建てる

（仏教の教えを人々の間に広めるため。）

今年度の
タブレット端末活用について

今年度の取り組みについて【取り組みの方向性】

公立学校としてできる実践を重ね
その取り組みを全市に広げていく

＋

これまでの あゆみ をとめない

今年度の取り組みについて【取り組みの方向性】

これまでの あゆみ をとめない

タブレット端末を活用する価値は大いにある

《昨年度と今年度の違い》

・スタッフの半数が入れ替わる
　→城東小のあゆみを知らない
　→操作や活用に関するレベルが違う
　→活用することに対する価値観に差がある

今年度の取り組みについて【具体的取り組み】

子ども

・１年間の学びにさらなる積み上げを進める
・利用上のルールとマナーも身についてきたので多様な場面での活用を推進する
・タブレット端末を通してあおば支援学校と交流する

職　員

・職員研修の充実（実技研修と授業研究）
→短期・中長期的な視点で取り組みをつなげる

今年度の取り組みについて【活用の推進に向けて】

タブレットPC活用履歴　【国語】※各学年ともドリルパークは除く　2019年度

1年

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】夏休みの思い出
【活用場面】発表
【操作】撮影(動画)、感想を書く
【備考】相手意識をもてた。自分の様子をふり返ることができた

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】かいがら
【活用場面】思考
【操作】文字入力
【備考】意欲をもって取り組めた。友達の考えを知るときに有効だった

【時期】10月【アプリ】ロイロノート
【単元】いろいろなふね
【活用場面】話し合い
【操作】撮影(画像)
【備考】画像をもとに話し合うのに有効だった

【時期】11月【アプリ】metamoji
【単元】すきなものクイズをしよう
【活用場面】思考、話し合い、説明
【操作】カード操作、撮影(動画)、基本的な操作
【備考】話題選びと、スムーズな話し合いに役立てた。関心・意欲が高まり、自分の考えを意欲的に説明できた。話す・聞くときの観点を意識して話せているかチェックできた。音声入力の仕方を学べ、自分の声を聞いてチェックできた

【時期】12月【アプリ】ロイロノート
【単元】おとうとねずみチロ
【活用場面】思考
【操作】書く
【備考】人物の気持ちを考え、まとめることができた

【時期】1月【アプリ】ロイロノート metamoji
【単元】「じゃんけんやさん」をひらこう
【活用場面】思考、説明、発表
【操作】カード操作、撮影(動画)音声録音
【備考】オリジナルじゃんけんづくりで配慮の必要な子も意欲的に取り組めた。自分の姿を確認し、ポイントを意識できているか振り返ることができた。声を出して、はきはき説明するように確認することができた。

2年

【時期】7月【アプリ】metamoji
【単元】ふろしきはどんなぬの
【アプリ】metamoji
【活用場面】話し合い
【操作】書く
【備考】本とカードの共通点（青）と相違点（赤）について話し合った

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】ビーバーの大工事
【活用場面】説明、思考
【操作】文字入力
【シキングツール】Yチャート
【備考】手書き入力の方が思考がスムーズに進む

【時期】1月【アプリ】ロイロノート
【単元】同じところ、ちがうところ
【活用場面】思考
【操作】書く
【シキングツール】PMI/KWL
【備考】有効に活用できた。

3年

【時期】7月【アプリ】ロイロノート
【単元】調べて書こう
【活用場面】話し合い、発表、観察、記録、整理
【操作】カード操作、基本的な操作、撮影(画像)、書く
【備考】話し合うために、タブレットの利用で効率であった

【時期】9月【アプリ】Clips
【単元】本の紹介
【活用場面】話し合い、発表、説明、製作
【操作】話し合い、文字入力、カード操作
【備考】録り直してもらう場面との使い分けが必要

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】心にのこったこと
【活用場面】思考、話し合い、発表、計画、整理
【操作】文字入力、カード操作
【備考】メモから文の組み立てに移行する時に有効

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】保健だよりを読み比べよう
【活用場面】思考、発表
【操作】書く、カード操作
【備考】有効な比較手段を模索中

【時期】9月【アプリ】Keynote
【単元】毛筆
【活用場面】思考
【操作】カード操作
【備考】字のバランスを把握することに有効

【時期】9月【アプリ】キーボー島
【単元】ローマ字
【活用場面】
【操作】文字入力
【備考】タイピング練習を行い、ローマ字学習への動機化図る。ローマ字の課題をゲームの要素を取り入れて実施

【時期】10月【アプリ】Keynote
【単元】毛筆
【活用場面】思考
【操作】カード操作
【備考】文字のパーツを組み合わせ、バランスを探り

【時期】10月【アプリ】ロイロノート
【単元】富士見の創造
【活用場面】整理
【操作】基本的な操作、文字入力
【備考】文章を要約し、リーフレットを作成するが、その過程でロイロを活用する

【時期】1月【アプリ】ロイロノート
【単元】町について調べてしょうかいしよう
【活用場面】思考
【操作】書く
【備考】

【時期】2月【アプリ】ロイロノート
【単元】世界の家のつくりについて考えよう
【活用場面】思考
【操作】書く
【備考】

4年

【時期】6月【アプリ】ロイロノート
【単元】案内係になろう
【活用場面】記録
【操作】撮影(動画)
【備考】評価時に見直すことができた

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】私の考えたこと
【活用場面】思考
【操作】基本的な操作
【シキングツール】ピラミッドチャート
【備考】主張・根拠・理由を意識して文を完成させることができた

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】広告と説明書をよみくらべよう
【活用場面】思考、発表
【操作】基本的な操作、撮影(画像)
【シキングツール】ベン図
【備考】広告と説明書を比較することができた。広告と説明書を比較することができた

【時期】12月【アプリ】ロイロノート
【単元】くらしの中の和と洋
【活用場面】整理
【操作】文字入力
【備考】付箋を使って自分の考えを整理するときに有効だった

【時期】12月【アプリ】ロイロノート
【単元】世界一美しいぼくの村
【活用場面】整理
【操作】書く
【シキングツール】くまでチャート
【備考】書く内容を整理する（メモ）のに有効だった

【時期】1月【アプリ】ロイロノート metamoji
【単元】目的や形式に合わせて書こう
【活用場面】製作
【操作】基本的な操作、書く
【シキングツール】くまでチャート
【備考】二つのアプリを使っての活動

【時期】2月【アプリ】metamoji
【単元】（特）コンビニ店長からの挑戦状
【活用場面】思考
【操作】基本的な操作
【シキングツール】ピラミッドチャート
【備考】主張、理由、根拠を意識して学習することができた。

【時期】2月【アプリ】ロイロノート
【単元】ゆめのロボット
【活用場面】創作
【操作】文字入力
【シキングツール】くまでチャート
【備考】内容を整理することができた。

5年

【時期】8月【アプリ】ロイロノート
【単元】討論会をしよう
【活用場面】記録
【操作】撮影(動画)
【備考】討論会を３箇所で同時に行う。話す聞くの評価がじっくりできる

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】資料を生かして考えたことを書こう
【活用場面】整理、思考
【操作】カード操作、文字入力
【シキングツール】くまでチャート、ベン図
【備考】資料をくまでチャートを使って読み取り、整理して考えることができた。カードに文字入力をするのか、ペンで書くのかで作業の時間が違うのでスキル習得の時間も必要。くまでチャートを活用して、新聞の枠をつくって提示し、必要な部分に記事を書き込むようにした。

【時期】11月【アプリ】metamoji
【単元】不思議の世界にでかけよう
【活用場面】創作
【操作】文字入力
【備考】自分でつくったお話を、文字入力して友達に読んでもらった。

【時期】11月【アプリ】metamoji
【単元】和の文化を伝えよう
【活用場面】検索
【操作】文字入力
【備考】和の文化について調べ学習をし、シートにまとめた。画像と文章で表現ができた。

【時期】11月【アプリ】ロイロノート
【単元】熟語の構成を知ろう
【活用場面】話し合い
【操作】カード操作
【備考】カードを動かしながら話し合いをすることで、対話が盛り上がっていた。文字は、まだ書き込むほうが早い。

【時期】1月【アプリ】metamoji
【単元】古文に親しもう
【活用場面】創作
【操作】書く
【備考】城東枕草子を作成。作文と写真を使って書く活動を行った。城東小の季節の風景をホームページで探したり、写真を撮影しに行ったりする。ホームページ以外から写真・イラストを取り込む児童がいたので著作権の指導を行った。

【時期】1月【アプリ】metamoji
【単元】伝えよう城東小学校
【活用場面】整理
【操作】書く
【シキングツール】フィッシュボーン図
【備考】リーフレットづくり。伝えたいことの構成メモをフィッシュボーンで作成した。画像を選択し話し合う作業をピラミッドチャートで行った。リーフレットを両面で印刷した。

6年

【時期】6月【アプリ】ロイロノート
【単元】新聞の投書を書こう
【活用場面】思考
【操作】カード操作
【シキングツール】ピラミッドチャート
【備考】主張・根拠・理由づけがつながるように、カードにして並び替えた

【時期】6月【アプリ】ロイロノート
【単元】詩
【活用場面】思考
【操作】文字入力
【備考】詩の書き方を示した

【時期】8月【アプリ】Keynote
【単元】書写「感謝」
【活用場面】思考
【操作】基本的な操作
【備考】文字の形や、字面のバランスを考え、気づいたことを意識して書くことができた

【時期】9月【アプリ】ロイロノート
【単元】資料を生かして
【活用場面】話し合い
【操作】書く
【シキングツール】ベン図
【備考】資料で読み取ったことを、ベン図を活用して整理した

【時期】1月【アプリ】ロイロノート
【単元】卒業文集
【活用場面】整理
【操作】カード操作
【備考】まとまりごとにカードに記入し、構成の工夫や添削を行った。

【時期】1月【アプリ】ロイロノート
【単元】句会を開こう
【活用場面】創作
【操作】書く
【備考】自作の俳句に合った写真を使って、作品を創作した。

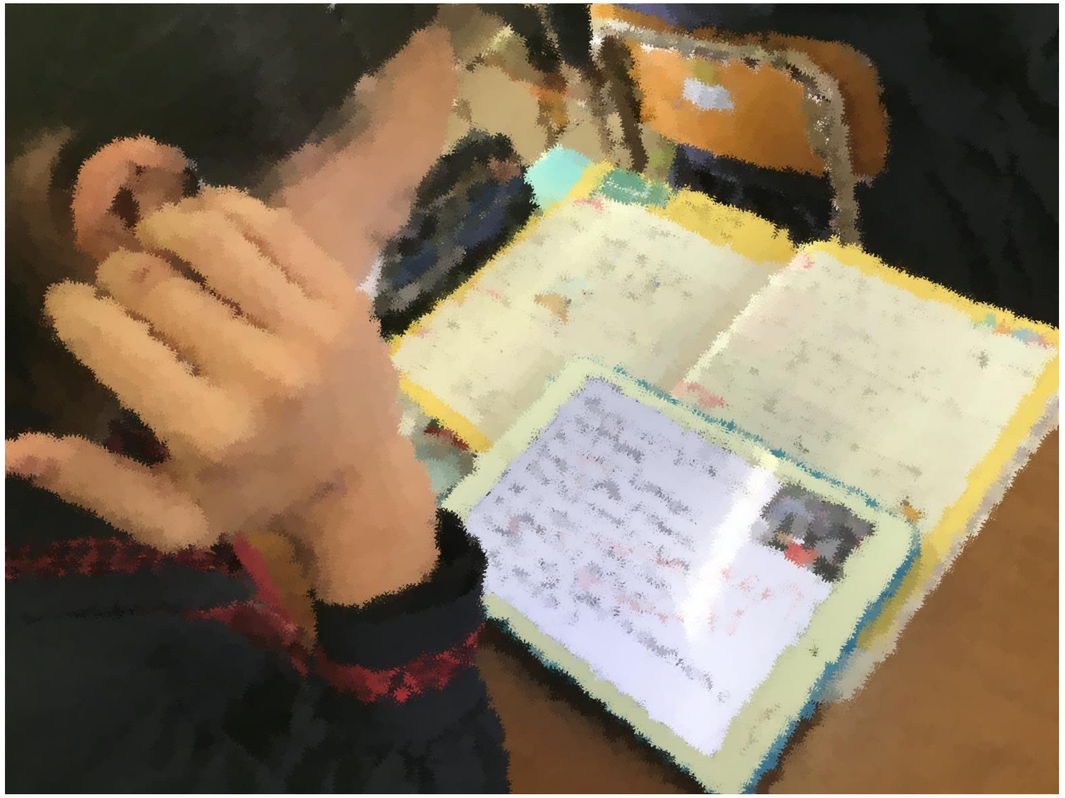
2019年度の各学級におけるタブレット端末の活用履歴を各学年・教科ごとに整理

活用履歴をもとに今年度の活用を推進

↓

効果を再検証し加除修正する

白川中におけるICTを活用した取組



熊本市立白川中学校

2020（令和２）年　８月　24　日

三角　貴志子

臨時休業中のオンライン授業から見えてきたこと

オンライン授業の取組の成果と課題

① 生徒からみた成果と課題

○学習の継続、新しい学びができた

○正しい生活習慣や学習の習慣がついた

○教室に入りづらい生徒も授業に参加できた

△友達との意見交流ができなかった

△機器の違いによる困惑

② 教師からみた成果と課題

教科や学年のチームによる授業

○教材研究の深まり

○タブレットを用いた授業づくりのノウハウの実践研修

○教科内、他教科からの学び

△生徒の理解度や反応がわかりづらい

△教師からの教授型の授業になりやすい

③ オンライン授業で学習したことを生かす取り組み

オンライン授業で出された課題をもとに調査

↓

学校再開後、授業で共有や交流

オンライン授業で出された課題

↓

学校再開後、授業で制作活動

ICTを活用した取組例

① 各授業での取組

使用予約も
タブレットで

（３）回収後のタブレット保管場所

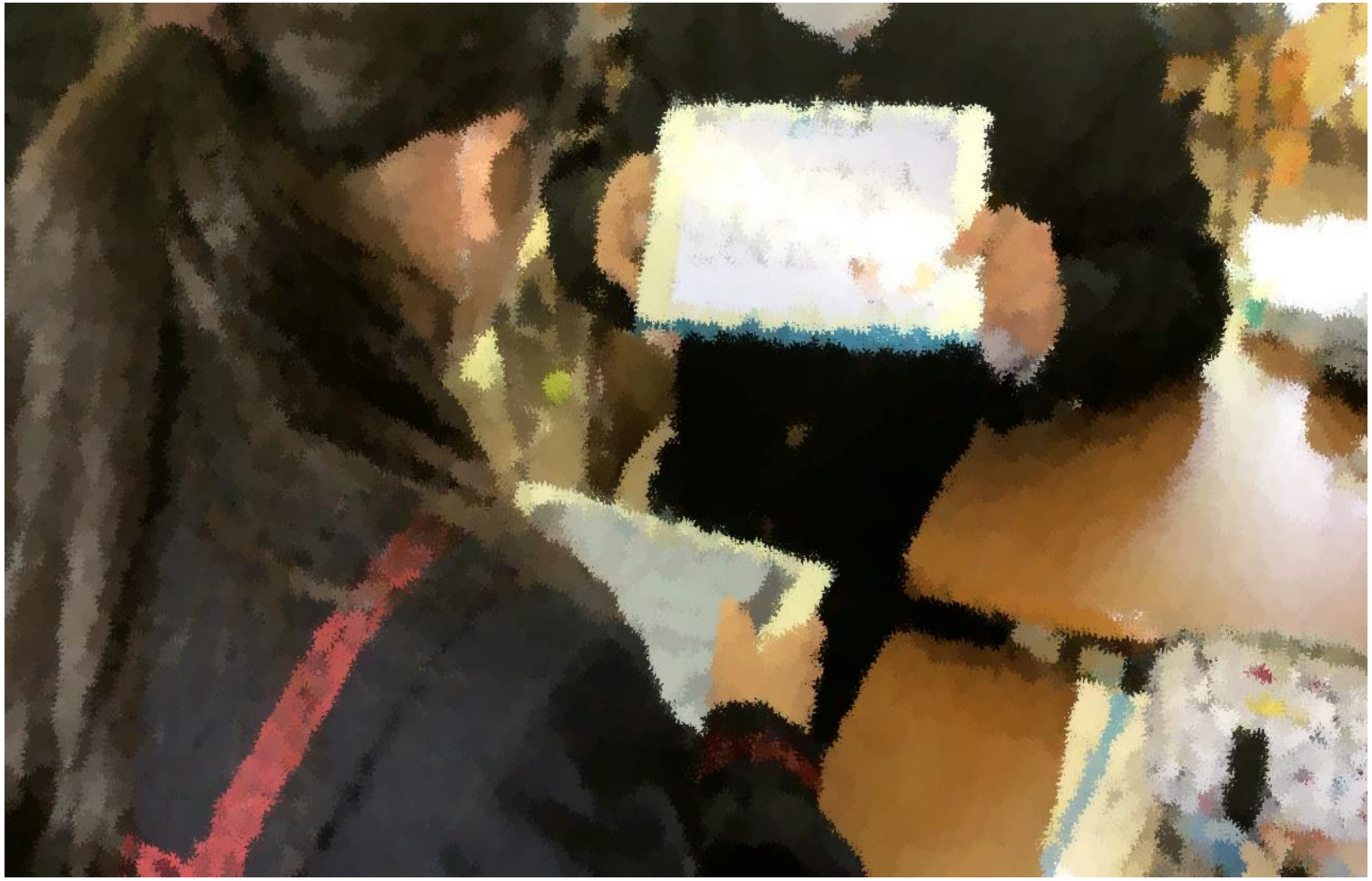
セット	タブレット番号	台数	保管庫の設置場所
A	001 ～ 039	39	2F 生徒指導室
B	041 ～ 080	40	2F 第２理科室
C	080 ～ 120	40	3F パソコン室
D	121 ～ 160	40	3F 文書保管室
E	161 ～ 180	20	
S	181 ～ 195	15	1F 多目的室（特別支援専用）

保管庫の設置場所は５か所です。

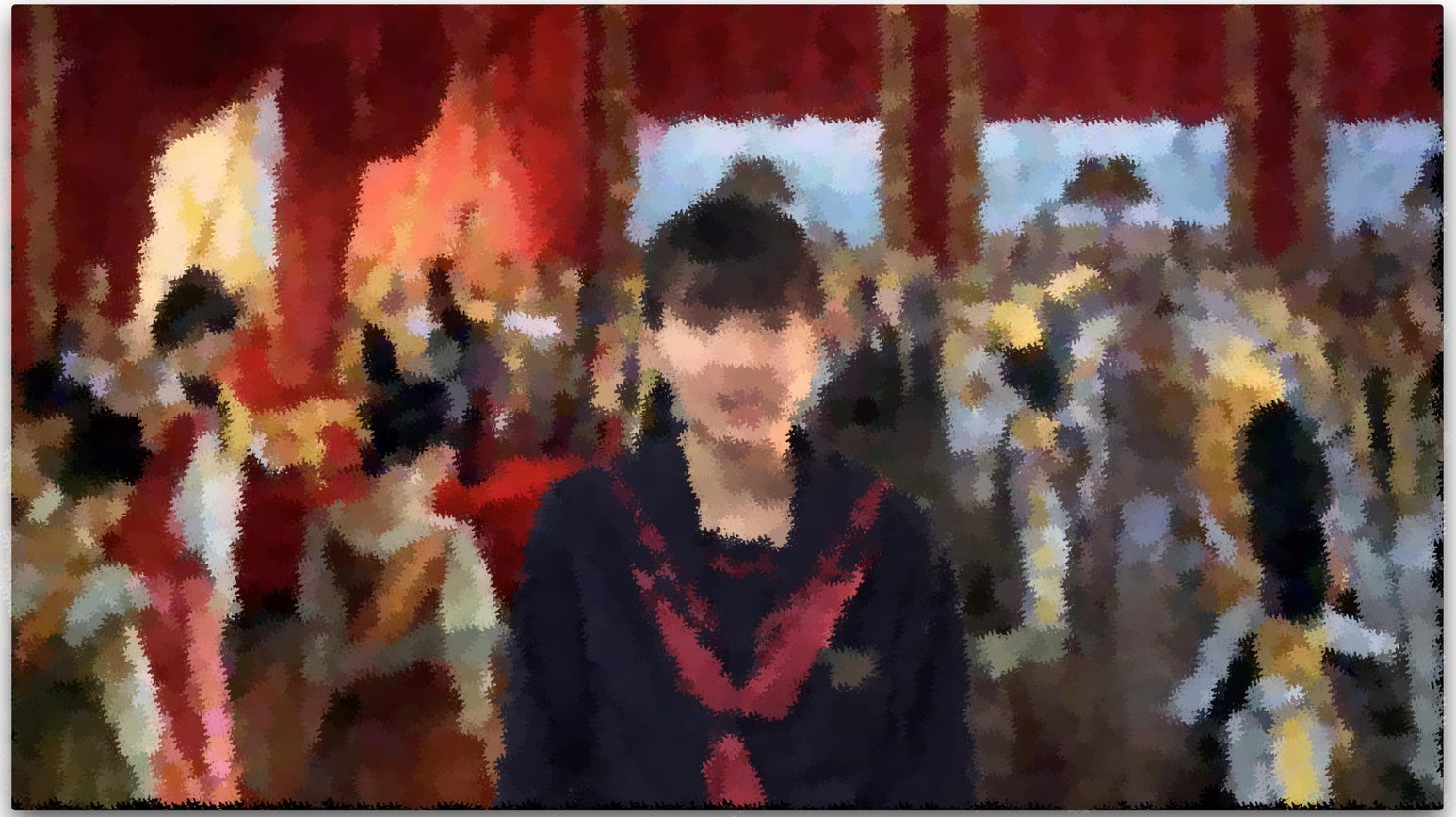
すべての保管庫に名前をつけます（Ａ～Ｓ）。

保管庫の鍵はすべて同じものです。
今後、置き場所を考えます。

１年生英語科（１人１台）　ロイロノートに日記を書いて紹介

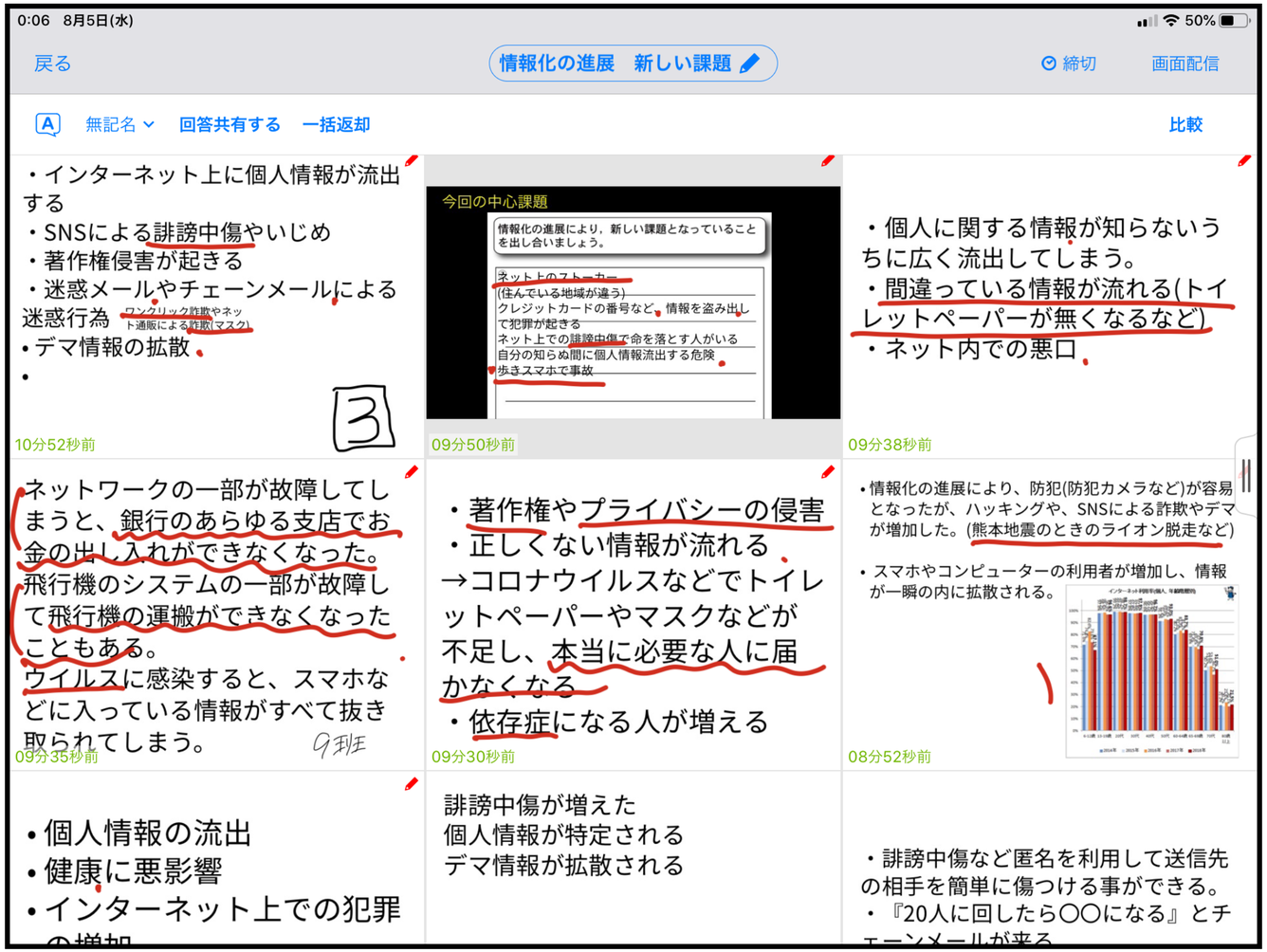


２年生社会科（１人１台）
明治時代の振り返りビデオを制作



iMovieを活用して
映像を撮影・編集

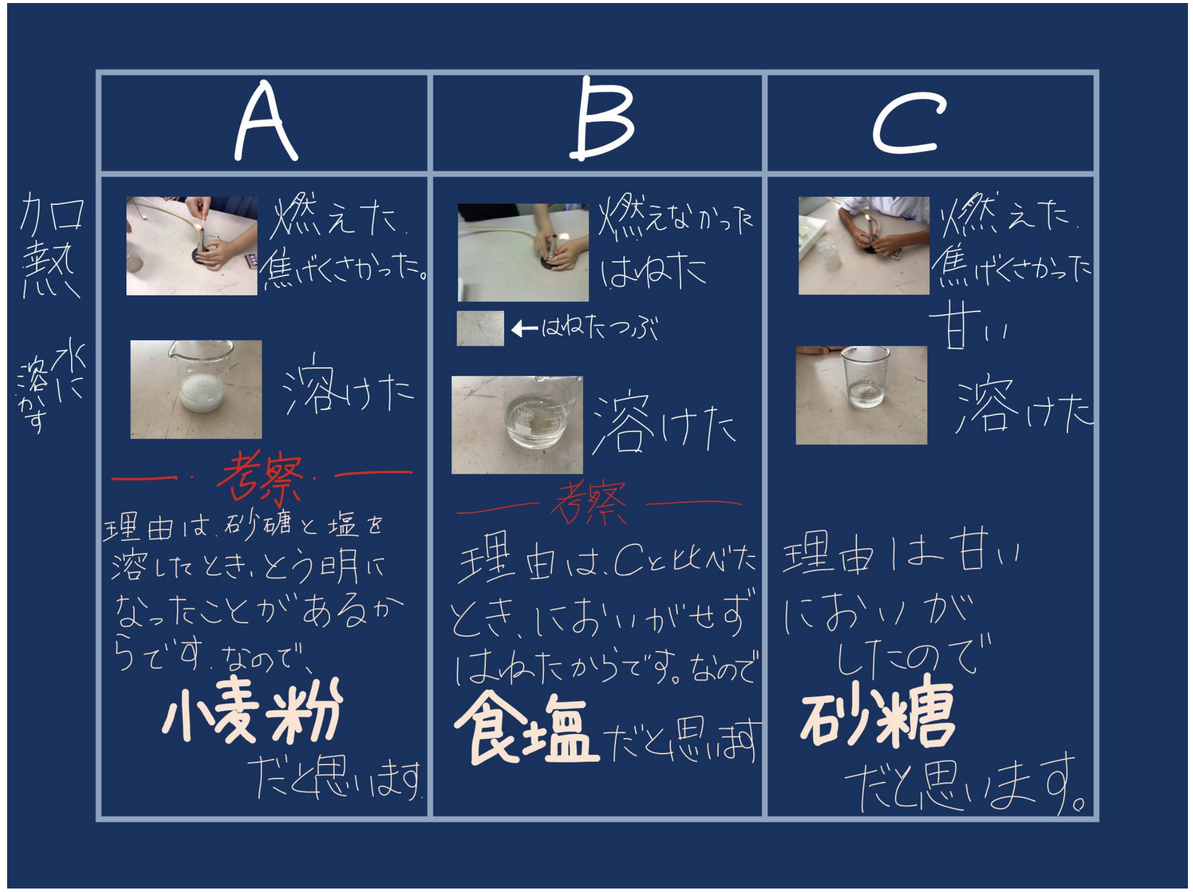
３年生社会科
ロイロノートを活用し、各班の意見を共有

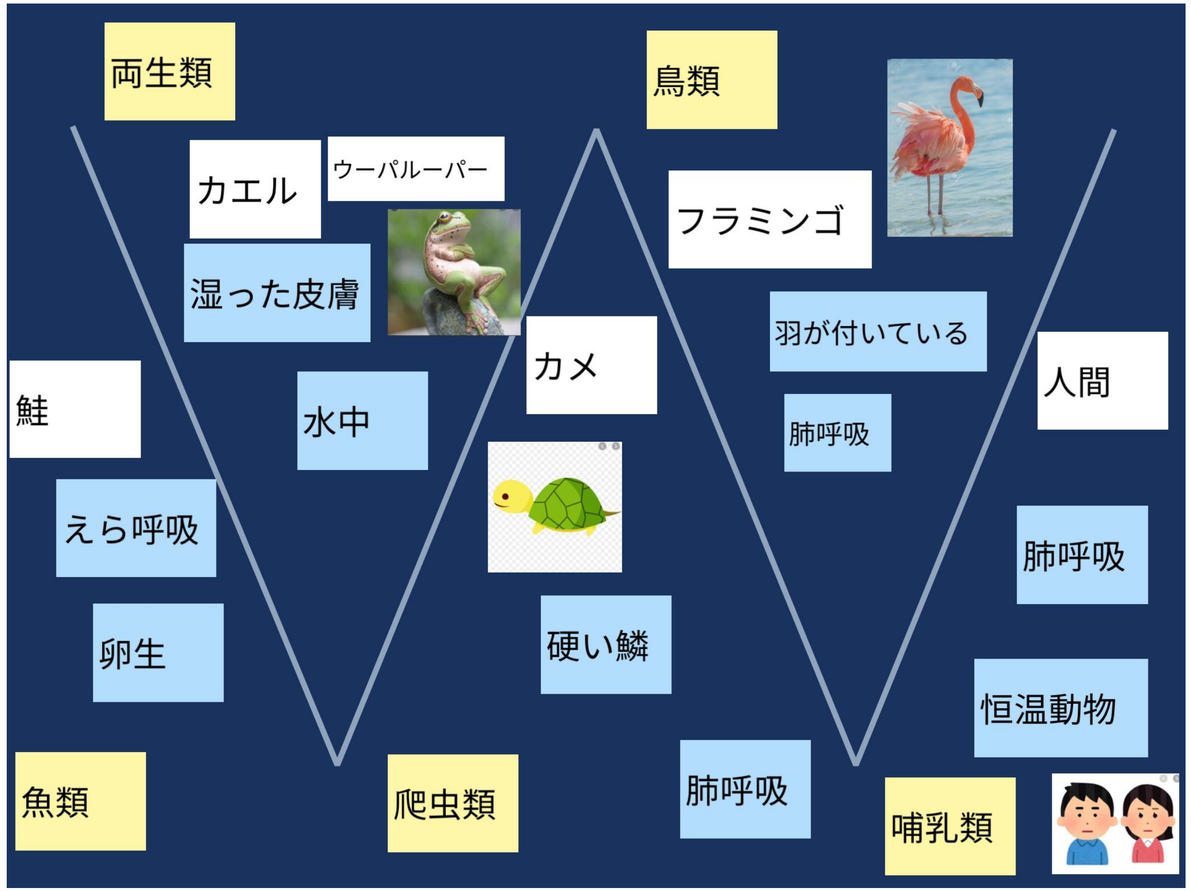


３年生技術科（２人に１台）
Playgroundsを使ったプログラミング学習

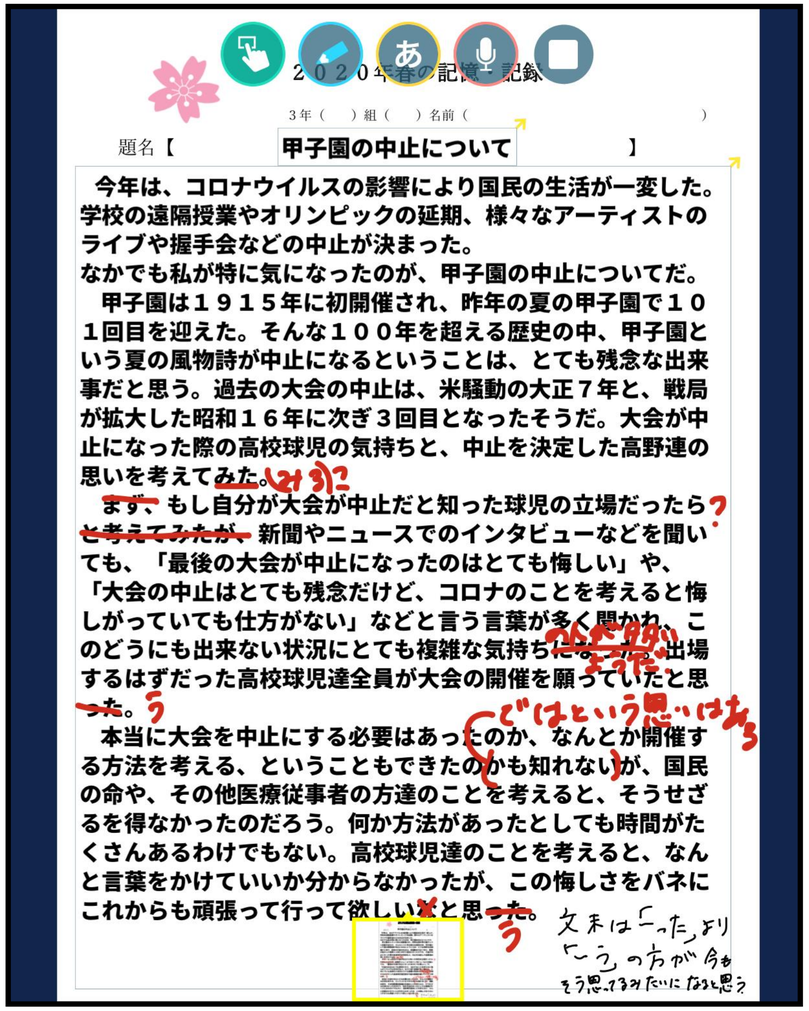
２年生理科（４人で１台）
実験の様子を動画に撮影→考察に利用

1年生理科　シンキングツールの活用
思考・まとめ　→　交流・発表





国語（２年）プレゼンづくり、発表会（２人で１台）
（３年）作文の交流→アドバイス→推敲（１人１台）



２０２０年春の記憶・記録

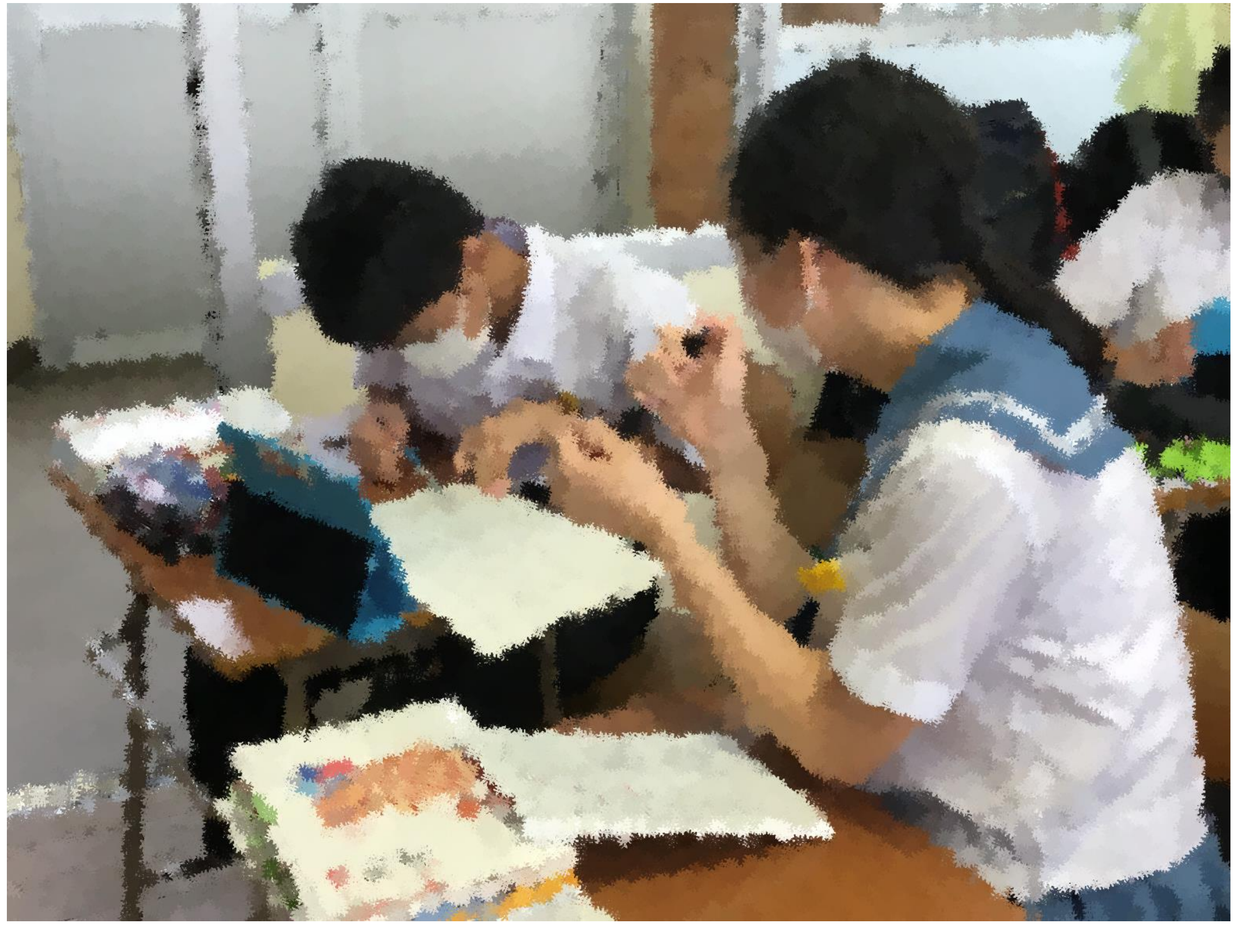
３年（　）組（　）名前（　　）

題名【　甲子園の中止について　】

今年は、コロナウイルスの影響により国民の生活が一変した。学校の遠隔授業やオリンピックの延期、様々なアーティストのライブや握手会などの中止が決まった。
なかでも私が特に気になったのが、甲子園の中止についてだ。
甲子園は１９１５年に初開催され、昨年の夏の甲子園で１０１回目を迎えた。そんな１００年を超える歴史の中、甲子園という夏の風物詩が中止になるということは、とても残念な出来事だと思う。過去の大会の中止は、米騒動の大正７年と、戦局が拡大した昭和１６年に次ぎ３回目となったそうだ。大会が中止になった際の高校球児の気持ちと、中止を決定した高野連の思いを考えてみた。
まず、もし自分が大会が中止だと知った球児の立場だったらと考えてみたが、新聞やニュースでのインタビューなどを聞いても、「最後の大会が中止になったのはとても悔しい」や、「大会の中止はとても残念だけど、コロナのことを考えると悔しがっていても仕方がない」などと言う言葉が多く聞かれ、このどうにも出来ない状況にとても複雑な気持ちになった。出場するはずだった高校球児達全員が大会の開催を願っていたと思った。
本当に大会を中止にする必要はあったのか、なんとか開催する方法を考える、ということもできたのかも知れないが、国民の命や、その他医療従事者の方達のことを考えると、そうせざるを得なかったのだろう。何か方法があったとしても時間がたくさんあるわけでもない。高校球児達のことを考えると、なんと言葉をかけていいか分からなかったが、この悔しさをバネにこれからも頑張って行って欲しいと思った。

文末は「った」より「う」の方が今もそう思ってるみたいになると思う

２年生数学（２人で１台）
資料から読み取ったことをロイロノートで提出



２年生　総合的な学習の時間
文化発表会に向けてのプレゼン作成
ロイロノートでナイストライまとめ

２年生（班に１台）
修学旅行事前学習

② その他の教育活動での活用

・委員会活動での活用

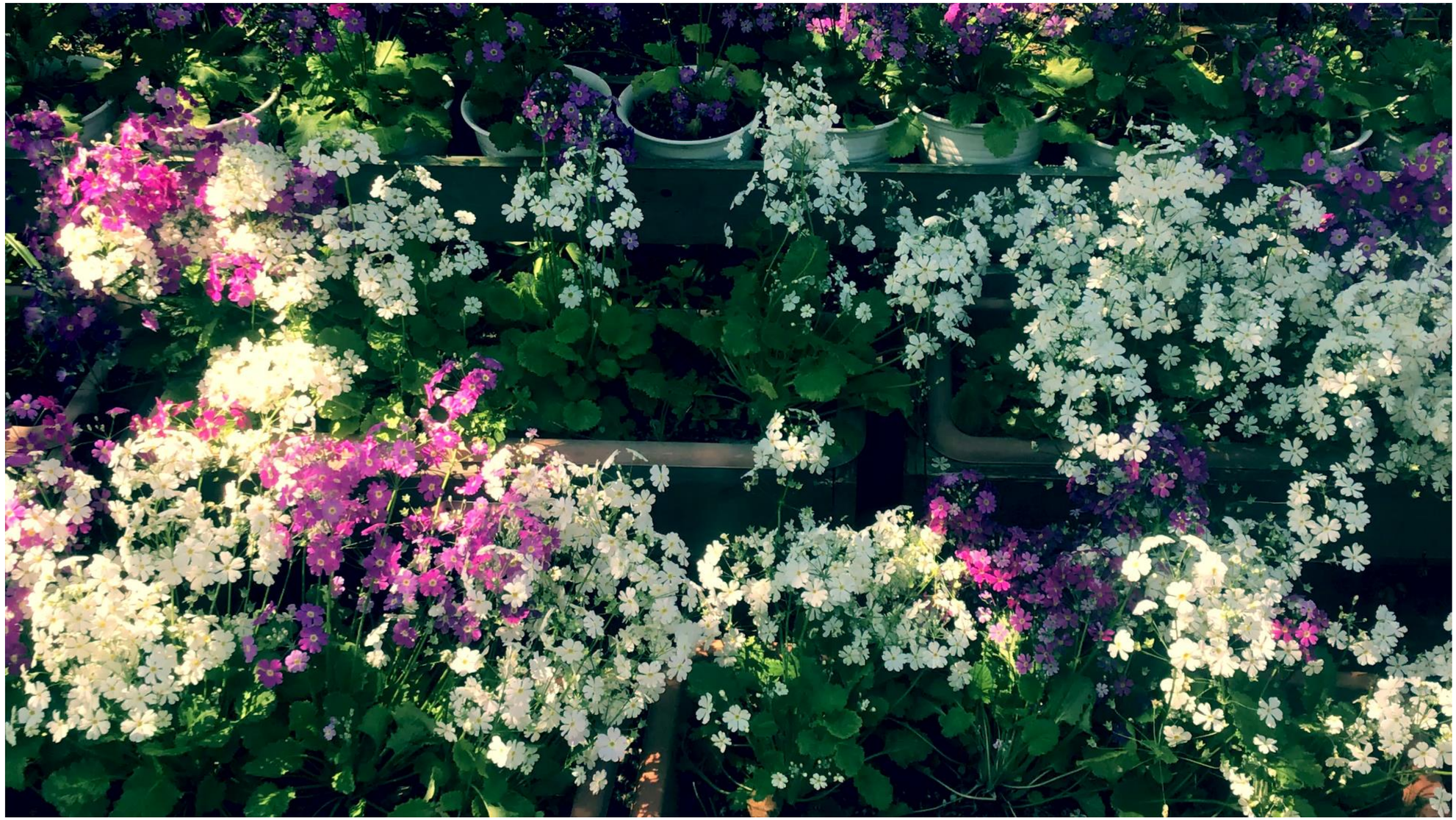
・部活動での活用

・リモートによる集会

・夏季休業中の学習会での個別指導

Zoomで各教室をつなぐ生徒総会

部活動紹介を生徒が作成した映像で



生徒と教室、学校をつなぐ取組

サポートルームから授業への参加

ロイロノートを使い、不登校傾向の生徒と学校をつなぐ取組

職員で情報共有

職員会議　学年会　校内研修　教材研究

今後の取組

研究テーマ　主体的に学びに向かう生徒の育成
～「学びとる」学習活動の実践～

ICT（タブレット）を活用した授業づくり

① 活用事例の共有

・教科会の定期的開催
→タブレット活用の可能性を探る
・校内研修で実践の紹介、共有
・トラブル例→ルールづくり

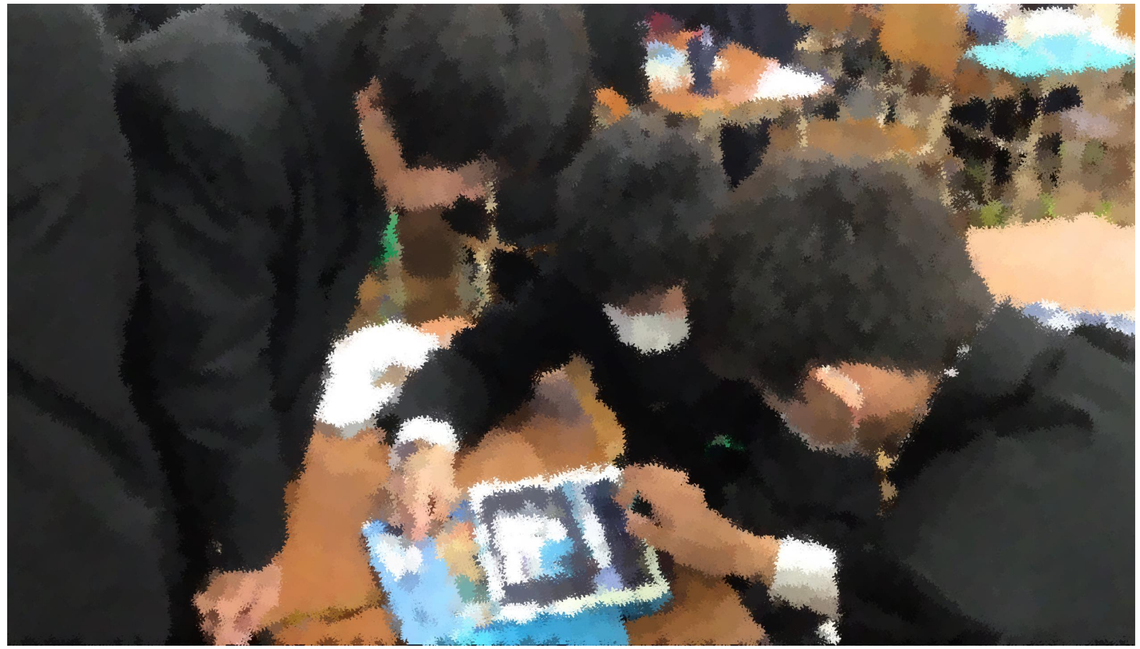
② アプリの使い方の研修

・ロイロノート
・ドリルパーク
・Metamoji その他のアプリ

③ タブレットを活用した授業実践

・タブレットを活用した授業計画、実践
・各教科での授業研究
・全職員参加による授業研究会

④ 実践のまとめ



主体的に学びに向かう生徒の育成を目指して

タブレット端末1人1台の整備計画について

(1) 追加整備台数

学校区分	児童生徒数（人） 2019年5月1日時点						合計	既存タブレット端末数（台）		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	(A)	児童生徒用（B）	整備率（B/A）	不足数（B−A）
小学校	6,682	6,796	6,858	6,853	6,808	6,925	40,922	12,365	30%	△ 28,557
中学校	6,404	6,146	6,382				18,932	6,801	36%	△ 12,131
合計	13,086	12,942	13,240	6,853	6,808	6,925	59,854	19,166	32%	△ 40,688

※補助金の算定基準の児童生徒数は、2019年5月1日時点
※参考（2020年5月1日時点の児童生徒数）
小学校　40,704人、中学校　19,044人
合　計　59,748人（昨年度との比較：106人減）

(2) 想定スケジュール

2020.7	2020.8	2020.9	2020.10	2020.11	2020.12	2021.1	2021.2
①契約候補者の決定（㈱NTTドコモ九州支社）	②仕様確定	③補助金の交付申請	④補助金の交付決定 ⑤契約 ⑥納品	中学校	小学校		⑦運用開始 2021.2～2025.1

※月に1万台ずつ納品
※中学1年生、小学1.・2年生は既存端末を利用（利用する学年については、在籍人数により学校判断可）

オンライン授業事後アンケート

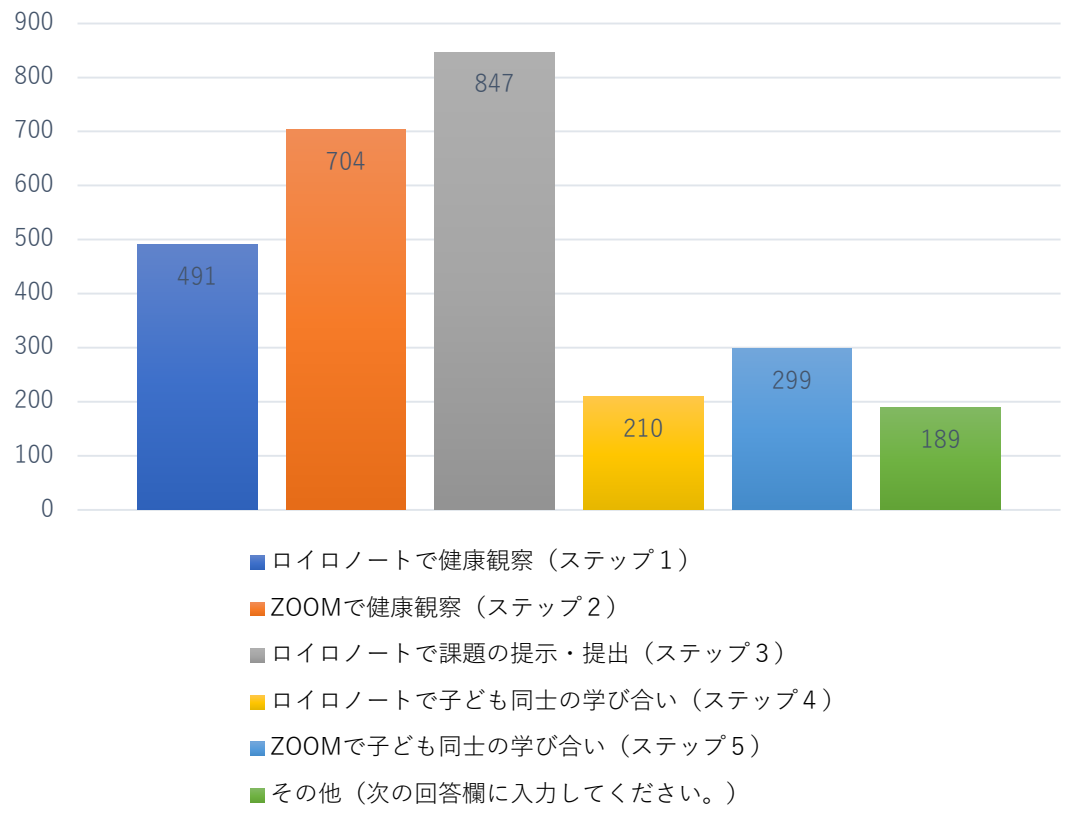
【調査対象】　教職員　小学校３年生～６年生担任及び専科担当者（９４７人）
　　中学校オンライン授業担当者（８０３人）
　　子ども　小学校３年～６年生（１９，０１６人）
　　中学校１年～３年生（１５，１７２人）
　　保護者　小学校３年生～中学校３年生保護者（２０，５３０人）

【調査時期】　令和２年７月７日（火）～１７日（金）

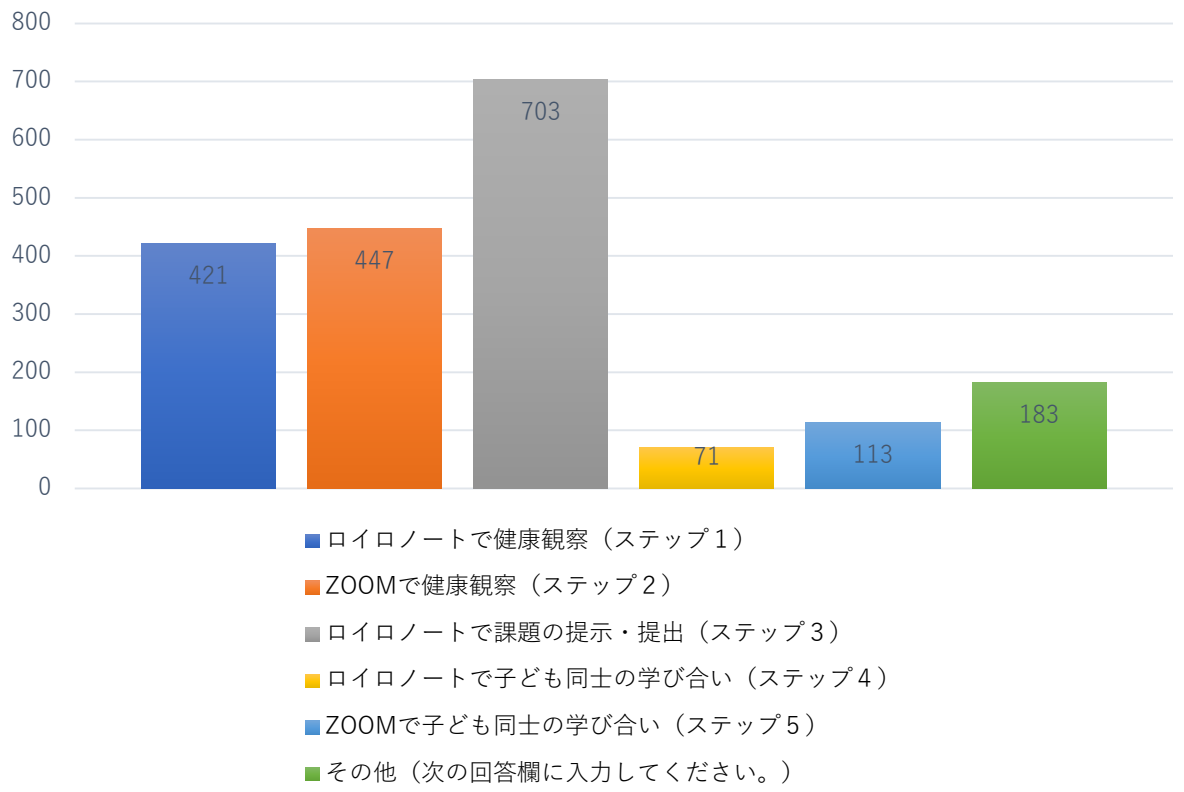
【調査方法】　教職員・子ども　質問項目をタブレットに配信
　　保護者　　安心安全メールで質問紙URLを配信

オンライン授業で何をやりましたか　【教職員】

小学校



中学校



オンライン授業で行ったこと（自由記述）　【教職員】

小学校

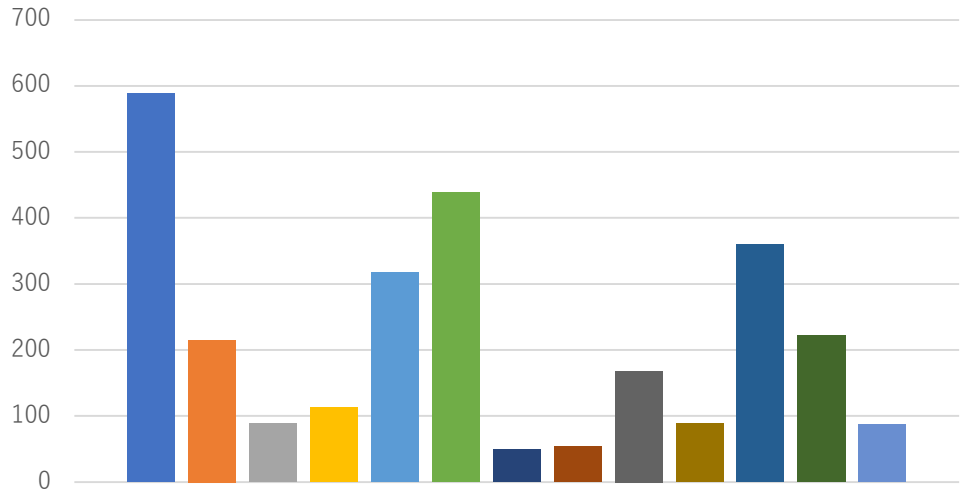
・ZOOMで授業
・ロイロノートで学習
・ZOOMで個別学習
・ロイロノートで動画配信
・体操
・YouTubeでの授業動画配信
・メタモジによる学習
・朝の会
・子ども同士の交流
・評価、テスト

中学校

・ZOOMで授業
・ロイロノートで学習
・メタモジによる学習
・ZOOMで個別学習
・ロイロノートで動画配信
・生徒会活動
・keynoteでプレゼンづくり
・子ども同士の交流
・体操
・YouTubeでの授業動画活用

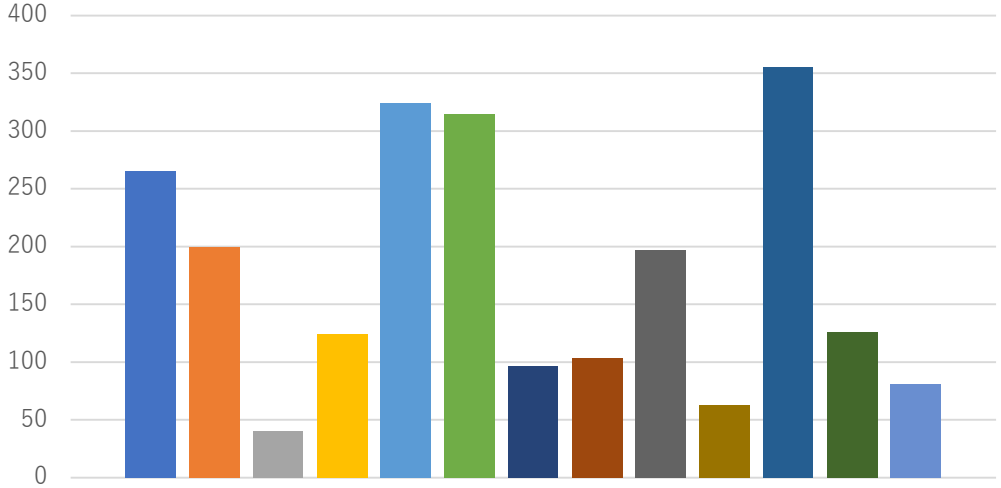
オンライン授業の成果と課題 （特にそう思うこと３つ） 【教職員】

小学校



- オンラインで子ども同士が会うことができた。
- 子どもが質問しやすかった。
- 子ども同士で学び合うことができた。
- 子どもが集中して学習に取り組むことができた。
- 子どものペースで学習できた。
- 子どもの生活リズムが乱れなかった。
- 課題が多くなり、子どもが大変だった。
- 子どもはZoomで授業を長時間受けることに疲れていた。
- 子どもが質問しにくかった。
- オンライン授業の機会が少なかった。
- 家庭のICT機器を使ったので、操作できないことがあった。
- 子どもがタブレットを操作することが難しかった。
- その他（次の回答欄に入力してください。）

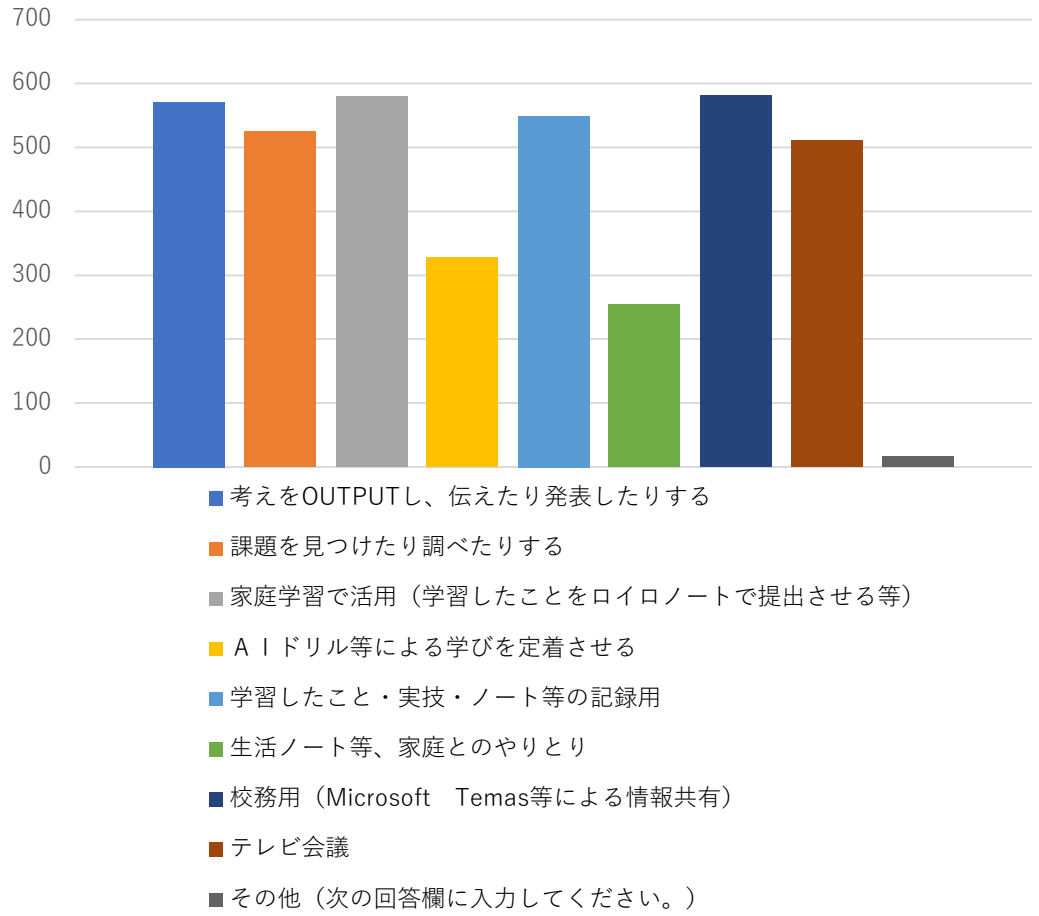
中学校



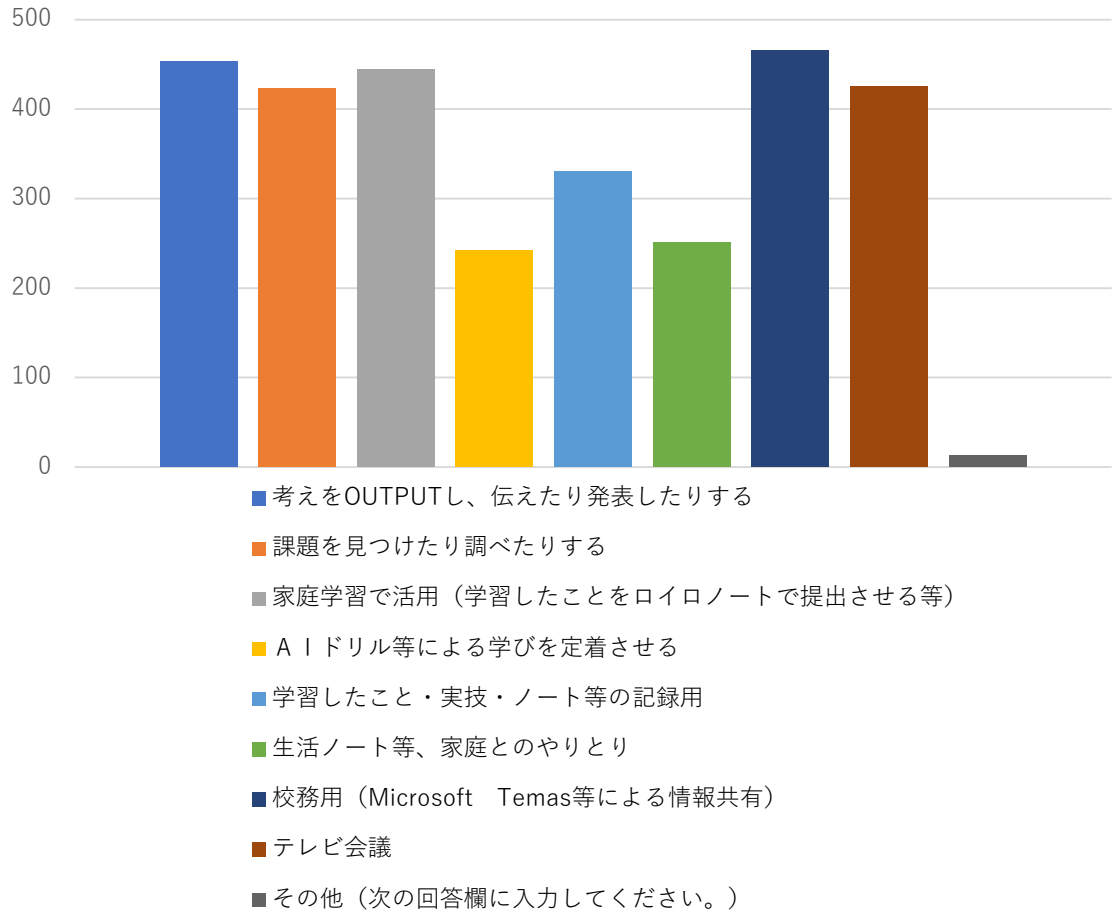
- オンラインで子ども同士が会うことができた。
- 子どもが質問しやすかった。
- 子ども同士で学び合うことができた。
- 子どもが集中して学習に取り組むことができた。
- 子どものペースで学習できた。
- 子どもの生活リズムが乱れなかった。
- 課題が多くなり、子どもが大変だった。
- 子どもはZoomで授業を長時間受けることに疲れていた。
- 子どもが質問しにくかった。
- オンライン授業の機会が少なかった。
- 家庭のICT機器を使ったので、操作できないことがあった。
- 子どもがタブレットを操作することが難しかった。
- その他（次の回答欄に入力してください。）

日常的にタブレット端末を使ってどんなことができるか。（複数回答可）　【教職員】

小学校

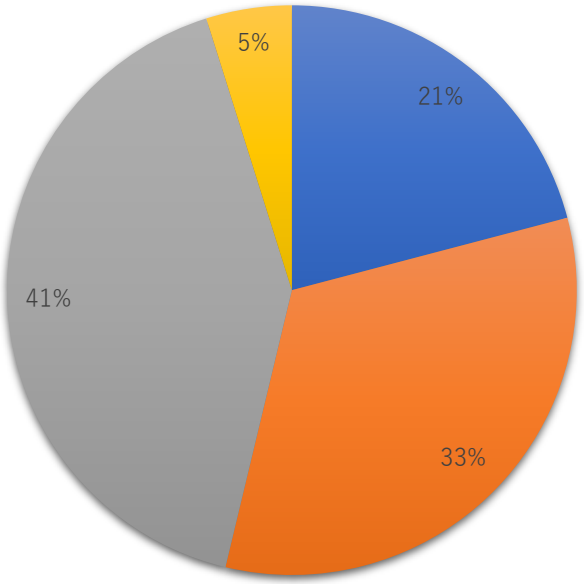


中学校



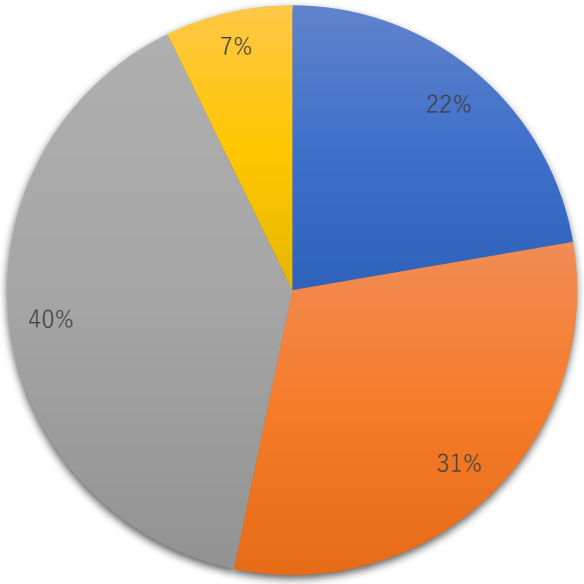
今後、解決すべきことや支援してほしいこと　【教職員】

小学校



- 教職員のICT機器の扱い方や操作研修・支援
- タブレットの授業での活用に関する研修・支援
- オンライン授業のモデルの提示
- その他（次の回答欄に入力してください。）

中学校



- 教職員のICT機器の扱い方や操作研修・支援
- タブレットの授業での活用に関する研修・支援
- オンライン授業のモデルの提示
- その他（次の回答欄に入力してください。）

オンライン授業を実施する上で、解決して欲しいこと、支援して欲しいこと（　自由記述　）【教職員】

小学校

・授業モデルの例示や評価の在り方

・一人一台のタブレット端末の整備

・指導主事やICT支援員による支援

・オンライン授業に関する研修の実施

・ロイロノート、Zoomの不具合の解消

・ロイロノート、Zoomの操作の支援

・情報モラルなど生徒指導上の対応

中学校

・授業モデルの具体的な実践例

・指導主事やICT支援員による支援

・オンライン授業に関する研修の実施

・情報モラルなど生徒指導上の対応

・一人一台のタブレット端末の整備

・授業動画の活用

・機器、アプリ、通信等の不具合解消

その他（　自由記述　）【教職員】

小学校

・子供の実態と家庭環境の違いから、オンライン授業そのものが難しいところもあった。

・いつ、どのサイトを、何時間見ていたかちゃんとわかり、家庭に通知するようにしてほしい。

・タブレットの家庭所有、家庭管理。様々に負荷がかかってきている状況で、公共物として学校で管理するのには限界がある。

・休校中、zoomで授業ができたことは大変助かった。子どもたちも友達の顔を見ることができて安心したようだ。

・これから、さらに有効活用ができるように教職員の研修が必要だと思う。

・オンライン授業を実施する上で、操作に長けた先生への負担が大きい。

・電磁波やさまざまな電波にさらされ続けることや、画面を見続けることなどによる健康被害が気になる。

・不登校ぎみの児童担当したが、zoomで毎日繋がり、比較的スムーズに新学期を迎えることができた。

中学校

・個人のパソコン等だと画面が写ってなかったりなどのトラブルが多かった。

・アプリの機能について十分に理解できていないと、授業で活用する事は難しい。最初にタブレットありきではなく、授業の中での有効なツールの一つとしてタブレット（アプリ）を使用すべきである。

・休校中、教材作成、授業、課題提示、課題チェックなど、1日の長い時間、画面を見ていたことは、本当に目に良くないと実感した。

・オンライン授業は普通の授業より、準備に時間がかかりました。時数が多くなると準備が苦痛になります。時間的に無理です。

・不登校生には、大変興味深く授業できるのではないでしょうか。また、集団に入りにくい子どもたちも、興味深く授業を受けることもできると、思いました。

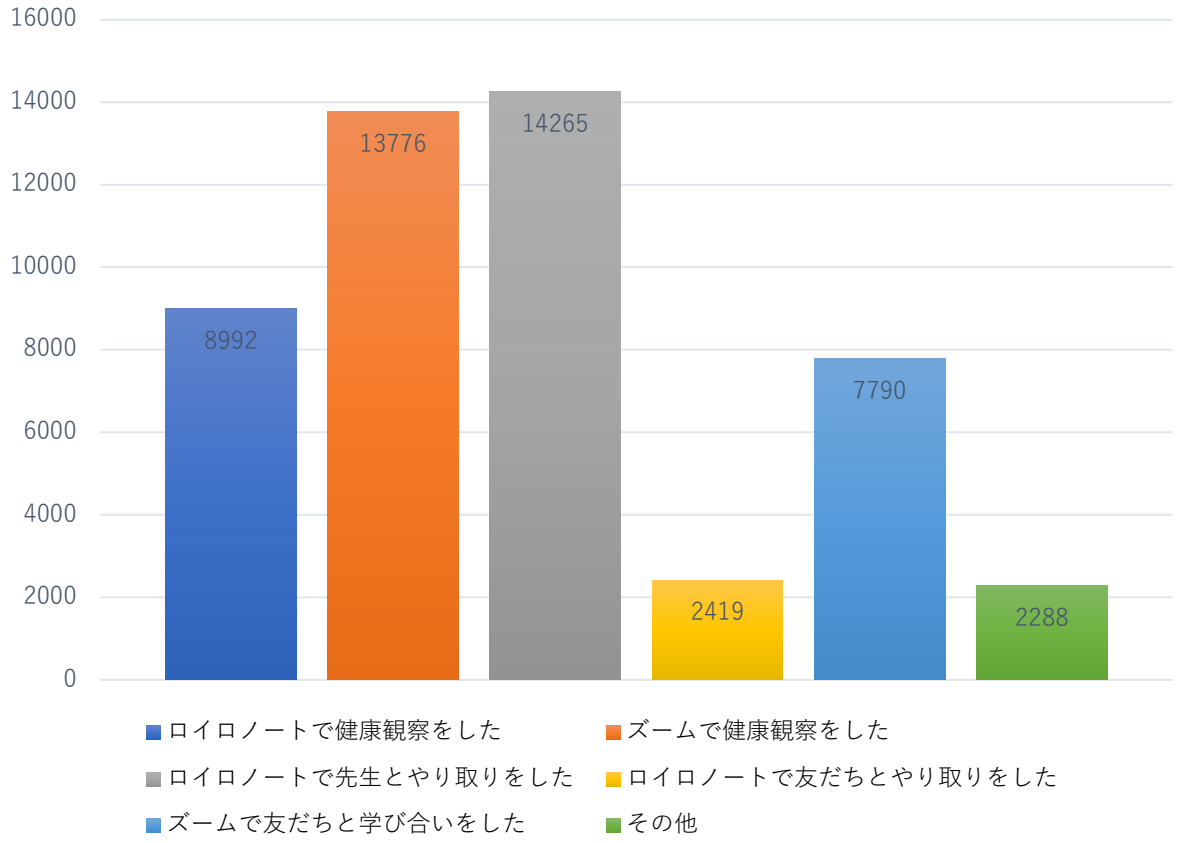
・不適切な使用をしている生徒の発見や指導について、困難を感じる。

・画面越しの相手に対して、顔を出すことに抵抗がある先生は私だけではないと思う。授業をすることに関して、というよりも教師側のそのような思いも汲み取って欲しい。

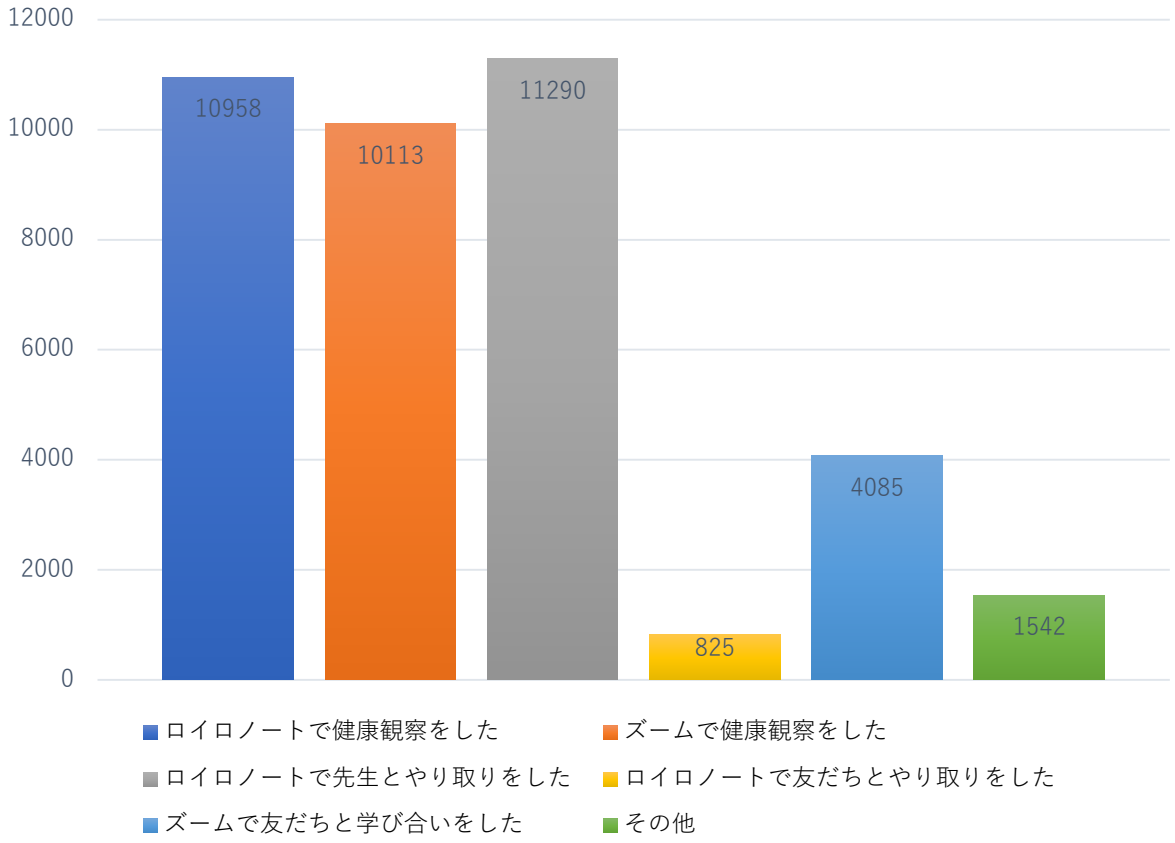
・オンライン授業はやってみてなかなか楽しかったです。

オンライン授業で何をやりましたか　【子供】

小学校



中学校



その他、オンライン授業で何をやりましたか　【子供】

小学校

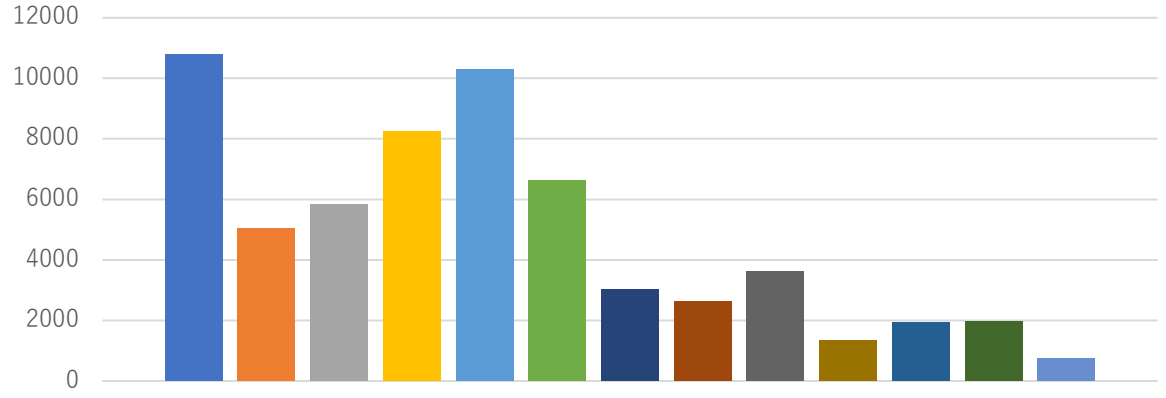
・Zoomで授業を受けた。
・学校のYouTubeを見て学習した。
・ロイロノートで授業の動画を見た。
・ロイロノートで課題を提出したり、質問したりした。
・ロイロノート勉強したものを写真やビデオに写し、
　先生に提出した。（リコーダー演奏、天気の写真）
・メタモジで学習に取り組んだ。
・ドリルパークに取り組んだ。
・Zoomでラジオ体操をした。
・友達とブレークアウトセッションをした。
・学級目標、活動を決め、自己紹介カードを作った。
・タイムラプスで調理実習に取り組んだ。
・バーチャル背景で、熊本市の色んな場所を学習した。
・朝の会、帰りの会をした。

中学校

・Zoomで授業を受けた。
・ロイロノートで課題を提出したり、質問したりした。
・ロイロノートで授業の動画を見た。
・メタモジで問題を解いた。
・ホームルームを行った。
・委員会、係決めを行った。
・一分間スピーチを行った。
・ラジオ体操、リーコーダーに取り組んだ。
・全校集会を行った。
・部活動のミーティングやストレッチをした。

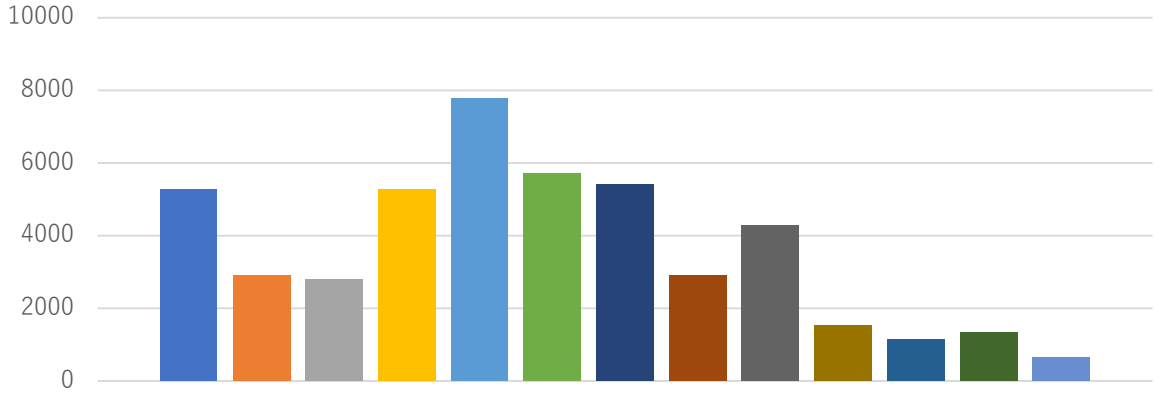
オンライン授業でよかったこと、もっとこうしてほしいと思うこと（特にそう思うこと３つ）　【子供】

小学校



- オンラインで友だちと会うことができた。
- 先生に質問しやすかった。
- 友だちと学び合うことができた。
- 集中して取り組むことができた。
- 自分のペースで学習できた。
- 生活リズムがくずれなかった。
- 学習に取り組む内容が多くて大変だった。
- オンラインで長い時間授業を受けるのは疲れた。
- 質問がしにくかった。
- オンライン授業の回数が少なかった。
- 自分の家のパソコンやタブレット、スマートフォンを使ったので、上手に使えないことがあった。
- タブレットを使うことが難しかった。
- その他

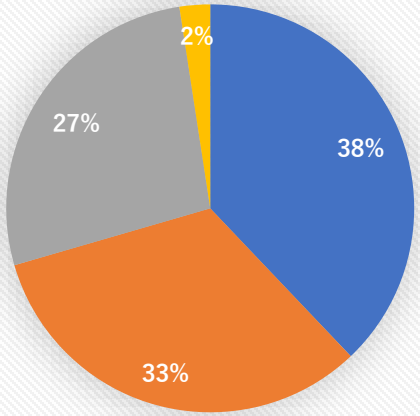
中学校



- オンラインで友だちと会うことができた。
- 先生に質問しやすかった。
- 友だちと学び合うことができた。
- 集中して取り組むことができた。
- 自分のペースで学習できた。
- 生活リズムがくずれなかった。
- 学習に取り組む内容が多くて大変だった。
- オンラインで長い時間授業を受けるのは疲れた。
- 質問がしにくかった。
- オンライン授業の回数が少なかった。
- 自分の家のパソコンやタブレット、スマートフォンを使ったので、上手に使えないことがあった。
- タブレットを使うことが難しかった。
- その他

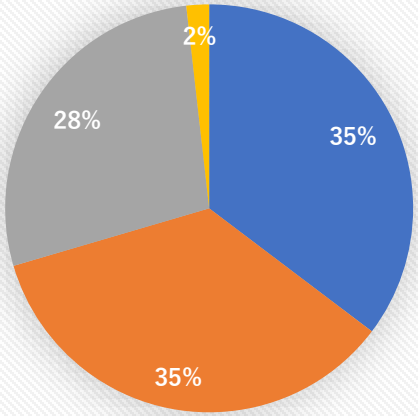
今後、どんな学習をしてみたいか　【子供】

小学校



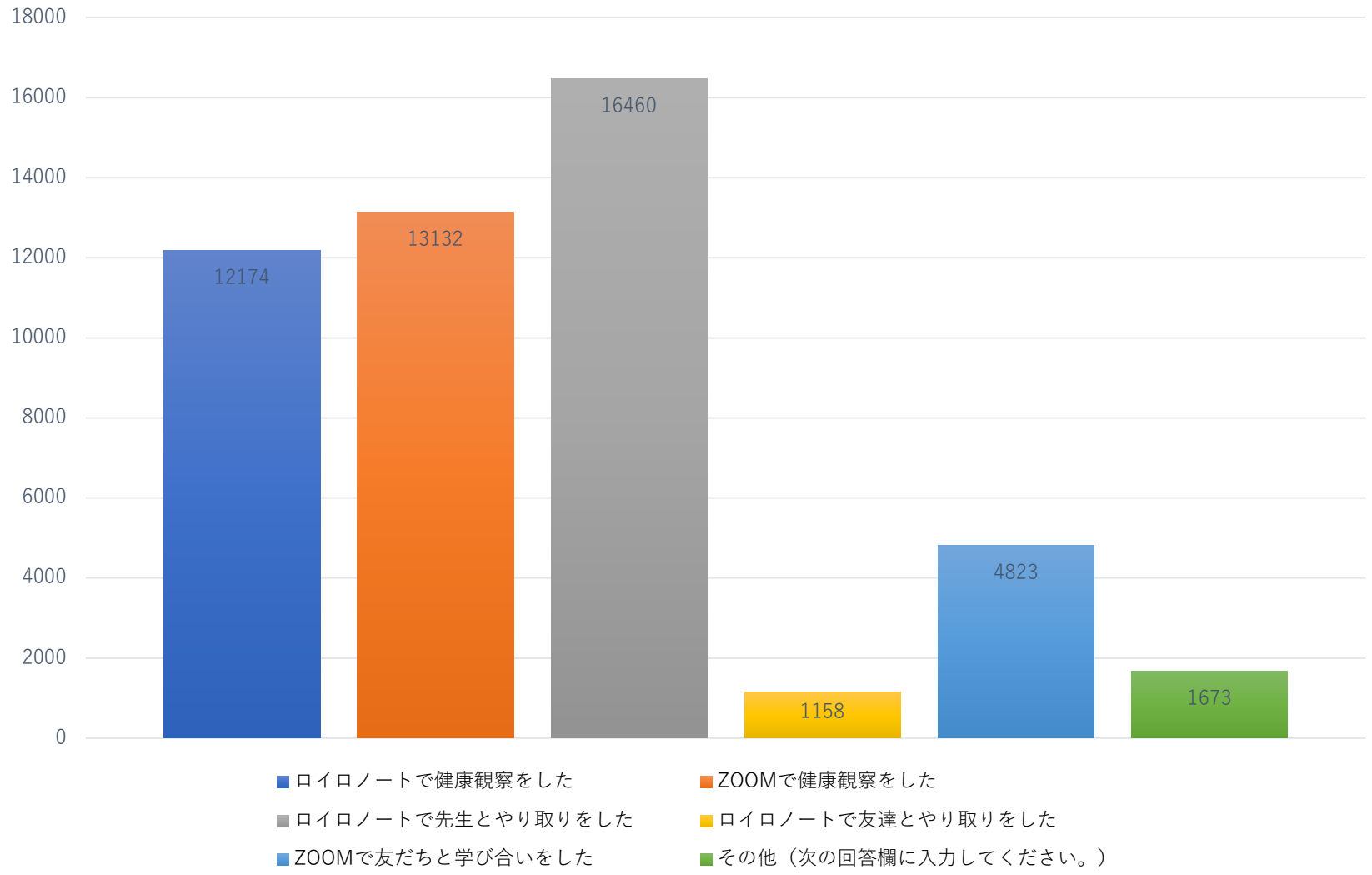
- タブレットを使って友だちと学び合っていく学習
- 自分のペースで問題を解いて進めていく学習
- 自分で学習する内容を決めたり、見つけたり、調べたりする学習
- その他（次の回答欄に入力してください。）

中学校

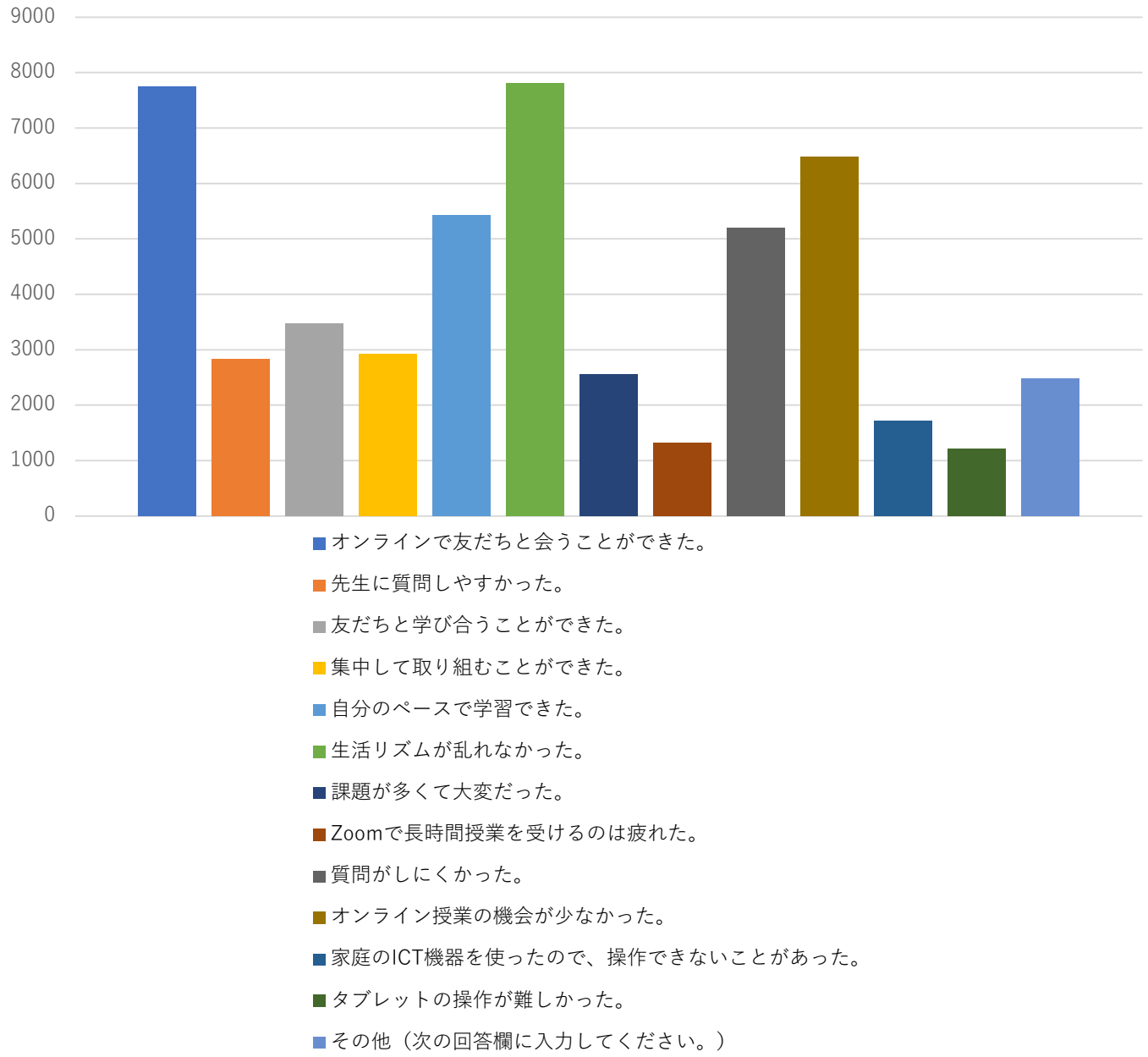


- タブレットを使って友だちと学び合っていく学習
- 自分のペースで問題を解いて進めていく学習
- 自分で学習する内容を決めたり、見つけたり、調べたりする学習
- その他（次の回答欄に入力してください。）

オンライン授業で何がありましたか　【保護者】



オンライン授業の成果と課題 （特にそう思うこと３つ） 【保護者】



今後、オンライン授業を実施する上で気づき（自由記述）　【保護者】　成果

・ロイロノートで先生が自分たちの自由表現の場を設けてくれたので、歌や、絵や、工作など、楽しそうに投稿したり、閲覧したりして、勉強にだけではなく、楽しんでオンライン授業に取り組めていたと思う。

・zoomを使った授業により、子どもにとっては自宅で（場所を問わない）IT機器を使った（ゲームだけではない）学びの発見ができたと思う。

・オンラインでの授業は、家庭で自習ばかりしていた子ども達の、勉強のやる気につながっていました。メリハリもできました。

・オンライン授業で、先生やクラスメイトに合える機会があったことはとても良かったと思います。子供の表情も少し和らいだ印象があります。

・課題の提出や自主学習のための参考動画などもあり、学習のリズムができた。子どもだけでなく、親にとっても安心感があった。

・時間割や課題提出までの時間制限を設けることで、生活のリズムが乱れず集中して取り組めた。

・新中1だったので初対面の友達との授業は緊張している様子でしたが、時間が経つにつれ慣れていき、学校が再開すると、すんなり友達になれたようでした。

・担任の先生から毎日、一言や添削をもらえたのは、とてもありがたかったです。

・オンライン授業では、インプットとアウトプットが難しいのではないかと考えておりましたが、想像以上に子供達のポテンシャルが発揮される場面が多く感じられました。

今後、オンライン授業を実施する上で気づき（自由記述）　【保護者】　意見要望

・1日のオンライン授業の時間が短いように感じた。課題は出してあったが、オンラインで繋がっている授業をもっと通常の時間割りのようにできないのかと思った。

・アクセスが集中すると課題の提出やロイロノートでデータの送受信が全くできず、待っている時間がもったいなかったので、内容も大切ですが、それ以前にスムーズに進められるような環境を整えていただければと思います。

・スマホでオンラインをしていましたが、やはり画面が小さすぎて操作にストレスがかかりました。全員タブレットをぜひお願いいたします。タブレットなど、子ども全員には同じ条件に整えてから実施してほしい。

・授業の録画などもあれば、振り返りも出来るのではと感じた。また授業1コマごとに理解度アンケートなどあれば、より質問もしやすくなるのかなと感じました。

・視力、姿勢などの身体面への影響も十分に考慮して授業を行ってほしいと思います。

・ZOOMでの授業では、先生から生徒への一方通行になっていたので、リアルタイムの意味が薄れていたように思えます。ロイロノートを用いて授業をし、生徒への反応を求める機会を増やして頂きたいです。

・可能であれば、双方向で授業ができれば、質問したり、友達と話せたりできたのではないか。

・zoomの授業を見ていて思ったのですが、先生が大事な話をする時や、誰かが発言する時は他の全員をミュートにしないと生活音や話し声を拾って発言者の声が聞こえづらくなる。

・習っていない事を家庭で課題に取り組まなくてはいけないので、親の負担が大きすぎて疲れ果てました。

・学校によってオンライン授業を受ける内容に差が出ないようにして欲しいです。

その他（自由記述）　【保護者】

・今回の事を踏まえて、有事の際のオンライン授業をスムーズに移行できるように熊本市や教育委員会、現場の先生方のより一層の連携が必要だと思いました。

・今後の子供たちの将来を考えると、ICTを活用した学校運営は必須になってくると思います。小学生だからまだ早いといって決めつけるのではなく、低学年から積極的に活用できるよう、教育含めて取り組んでいただきたい。

・オンライン授業であっても、生徒同士がグループで話し合えたりなど、アクティブラーニング型の授業で、それぞれが別の場所にいても繋がりを感じられたり他者からの学びを感じられるように工夫してもらいたい。

・熊本市内の学校ごとに、活用の差があるのが気になります。子どもたちは使い方はすぐに身に付くので、情報モラルを含めたITリテラシーのご指導をお願いしたいです。

・今回、オンラインの授業では各学校により授業内容や質に開きがあったように思う。オンライン授業を実際の授業時間に換算するのであれば、回数や内容などある程度学校間で統一して欲しい。

・3ヶ月近い休校で、不足する授業日数が1週間ほどだというお知らせがありましたが、プリントなどの問題を解かせるだけの家庭学習を授業時数と置き換えることに納得出来ません。

・ロイロノートは、保護者のスマホでも共有出来るため、課題提出をちゃんとやれているか確認できるので良かったです。緊急時以外でも、普段の授業からもっと積極的に使えるといいと思います。

・長い休校中、オンライン上で先生やお友達と繋がれる事は、親子共に心の安定になりました。生活リズムも整えられるし、助かりました。勉強面も良かったですが、精神的に良かったです。

総合支援課

臨時休校中及び学校再開後の児童生徒の状況調査結果　（令和2年7月22日集計）

	設問① 臨時休校中に、昨年度不登校であった児童生徒で、オンラインによる健康観察や課題のやり取りができた児童生徒は何人いましたか。		設問② 臨時休校中に、昨年度不登校であった児童生徒で、オンラインによる授業に入ることができた児童生徒は何人いましたか。		設問③ 学校再開後、昨年度不登校であった児童生徒で登校できた生徒は何人いますか。		設問④ 学校再開後、6月の1ヶ月間で、かぜ等の体調不良の理由で「出席停止」扱いとした児童生徒は何人（実人数）いましたか。		設問⑤ ゲーム依存が原因と考えられる児童生徒で、登校できていない児童生徒は何人いますか。	
小学校	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）
	154	49.0	108	34.4	130	41.4	3366	8.3	16	0.04
中学校	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）
	417	57.4	288	39.7	227	31.3	1164	6.1	85	0.44
備考	※設問①～③の割合計算の分母は、小学校は昨年度の小学1年～5年の不登校児童数（314人）、中学校は昨年度の小学6年・中学1年・中学2年の不登校児童生徒数（726人）としている。 ※設問④・⑤の割合計算の分母は、小学校は今年度の小学校全児童数（40，704人）、中学校は中学校全生徒数（19，044人）である。									

タブレット端末１人１台を整備したことによる「新しい学び」について

「1人１台端末・高速通信環境」がもたらす学びの変容イメージ

GIGAスクール構想

- ✓ １人１台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの教育実践の蓄積 × ICT ＝ 学習活動の一層充実　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

	「１人１台端末」ではない環境		「１人１台端末」の環境
一斉学習	・教師が電子黒板等を用いて説明し子供たちの興味関心意欲を高めることはできる	学びの深化	・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる → 子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に
個別学習	・全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）	学びの転換	・各人が同時に別々の内容を学習できる ・各人の学習履歴が自動的に記録される → 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に
協働学習	・グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい（積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に）		・一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる ・各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる → 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる

「１人１台端末」の活用によって充実する学習の例

- ☑**調べ学習**　課題や目的に応じて、インターネット等を用い、記事や動画等の様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- ☑**表現・制作**　推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- ☑**遠隔教育**　大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
- ☑**情報モラル教育**　実際に真贋様々な情報を活用する各場面（収集・発信など）における学習

3

「未来の学び」構築パッケージ（令和元年度補正予算・2年度当初予算案）より　内閣官房IT総合戦略室　総務省　文部科学省　経済産業省

タブレット端末１人１台を整備したことによる「新しい学び」について

「1人1台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージ

工夫次第で、
学びの可能性は無限大に。

ステップ３
教科の学びをつなぐ。
社会課題等の解決や
一人一人の夢の実現に活かす。

例えば…
・理科の授業で、観察・実験の際に、動画撮影で、振り返りやよりきめ細かな分析が可能。
・社会の授業で、各自で収集した様々なデータや地図情報をPC上で重ね合わせて深く分析。

ステップ２
教科の学びを深める。
教科の学びの本質に迫る。

例えば…
・検索サイトを用いて、授業テーマに応じて一人一人が様々な文章や動画を収集し、情報の真偽を判断し、整理する。
・一人一人が文章作成ソフトを活用し、推敲を重ねて長文のレポートを作成する。

ステップ１
“すぐにでも” ”どの教科でも”
“誰でも”活かせる１人１台端末

ステップ１　“すぐにでも” ”どの教科でも” ”誰でも” 活かせる1人１台端末

例えば…

検索サイトを活用した調べ学習

- 一人一人が情報を検索し、新聞記事や動画等を収集・整理する
- 子供たち自身が、アクセスした様々な情報の真偽を確認・判断する

文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

- 子供たち一人一人が自分自身の考えをまとめて共有する
- 共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合う

一斉学習の場面での活用

- 定理や史実等のイメージを持ちやすくなるデジタル教材を提示する
- 一人一人の反応や考えを即時に把握しながら、双方向的に授業を進める

一人一人の学習状況に応じた個別学習

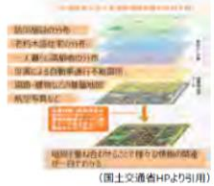
- 学習者用デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化する
- 様々な特徴を持った子供たちに対して、よりきめ細やかな対応を行う

ステップ２：教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。

例えば…

国語

書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる
・文章作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言し合う
・文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲し、データを共有する



（国土交通省HPより引用）

社会

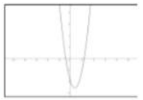
ICTを活用して国内外のデータを加工したり、地図情報に可視化したりして、深く分析する。
・各自で収集したデータや地図を重ね合わせ、情報を読み取る
・分析した情報を、プレゼンソフトでわかりやすく加工して発表

理科

観察、実験を行い、動画を使ってより深い分析を。
・観察・実験を動画で記録することで、現象を丁寧に分析
・その結果を、レポートやプレゼン資料などにまとめる
・写真やグラフの挿入により、表現の幅を広げる

英語

海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、児童生徒の発信力を高める。
・一人一人が海外の児童生徒とつながり、英語で交流・議論を行う
・ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、児童生徒のアウトプットの質と量を大幅に高めることが可能



算数・数学

関数や図形などの変化の様子を可視化して、学びを深める。
・画面上に表示した二次関数のグラフを、式の値を変化させて動かしながら、二次関数の特徴を考察
・正多角形の基本的な性質をもとに、プログラミングを通して正多角形の作図を行う

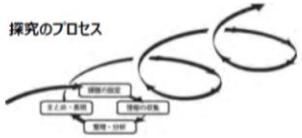
ステップ３：教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。

ICTを含む様々なツールを駆使して、各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育※

※Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用することができる

探究のプロセス



課題の設定	実社会の問題状況に関わる課題、進路や教科等横断的な課題などを設定
情報の収集	文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等
整理・分析	統計による分析、思考ツール、テキストマイニング等で分析
まとめ・表現	論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信

※STEAM教育の推進方策については、現在文部科学省の中央教育審議会で議論中

経済産業省「未来の教室」実証事業の取組

農業高校×IoT/ロボティクス/プログラミングのSTEAMプログラム

農業高校において、生徒が見つけた農業の課題を解決すべく、IoT活用によるデータ解析、ロボットやプログラミングの演習を実践。東京と北海道の学校をつないだ共同研究も実施。

体育（タグラグビー）×プログラミング×数理のSTEAMプログラム

タグラグビーの実践と、模式化したAIゲームによる戦略立案を試行錯誤。算数やプログラミングの感覚と、身体表現をつなぐ学びを実現する。

「未来の学び」構築パッケージ（令和元年度補正予算・2年度当初予算案）より　内閣官房IT総合戦略室　総務省　文部科学省　経済産業省

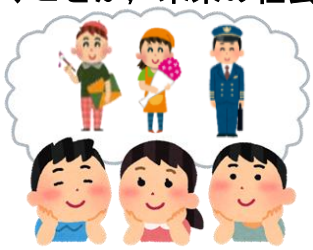
児童生徒のみなさんへ

2020年　学び方もステップアップ

先生に「教わる」から自分で「学びとる」へ

みなさんが大人になって活躍する社会は，ＡＩ（人工知能）の進化などにより，大きく変化すると考えられます。しかし，ＡＩに目的を与えたり，その目的のよさを判断したりするのは人間です。「自分で判断し，周りの人と協力しながら新しいものを創り出すこと」は人間の強みです。この強みを伸ばしていくことが，未来の社会を切り拓く力になります。

内閣府ＨＰより



みなさんが生きる未来の社会はどんなふうになっていると思いますか？
ＱＲコードを読みとって，ちょっとのぞいてみましょう。

総務省動画チャンネル

社会を切り拓く力をつけるため，学び方をステップアップ！

「教わる」

先生の説明を聞く授業

「学びとる」

①自分で課題を見つける

②対話で自分の考えを深め，課題を解決する

③自分の学びを振り返る

先生方は，教えることに加え，課題解決に向けて，みなさんの考えを引き出したり，つないだりして，一人一人の学びが深まるようにコーディネートしてくれます。

ステップアップへの3つの心得

1「わからないこと・間違い」は，学びの宝庫

間違いや失敗にも学びのタネがいっぱい詰まっています。わからないことを恥ずかしがらず，間違いを恐れずチャレンジしましょう。

2「聴き合える仲間」は，強い味方

一人ではできないことも，友達と協力するとできることがあります。自分とは違う友達の考えに触れると，さらにたくさんのことに気づいたり，新たな考えが生まれたりします。

3「振り返り」は，次の学びへのエネルギー

できるようになったことや，まだできていないことを振り返ると，次に何をがんばればいいのかがはっきりしてきます。また，自分がやってみた方法がよかったのか，もっといい方法が他にあるのか考えると，次の学びに生かすことができます。

保護者の皆さまへ

教師主導の「教わる」授業から 子どもが主役の「学びとる」授業へ

急速に社会が変化し予測困難な時代の中で，学校教育には，子どもたちが様々な変化に向き合い，周囲と協働して課題を解決していくことや新たな価値を生み出すことが求められています。

こうした状況を踏まえ，令和２年度（中学校は令和３年度）から，新しい学習指導要領による学習が始まります。教科書が新しくなり，小学校３年生から本格的に外国語活動が始まり，５年生から新たに外国語科が始まります。また，新しくプログラミング教育も始まります。

学習の評価は，次の３観点で行われます。

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

また，新しい学習指導要領では，学習の基盤となる力として，次の３つが示されています。

- 言語能力
- 情報活用能力
- 問題発見・解決能力

そこで，熊本市では，この３つの力を育成するため，学校の授業を教師主導の授業（子どもが教わる授業）から，子ども主体の授業（子ども自ら学びとる授業）へ，転換していきます。子どもたちが**「教わる」**から**「学びとる」**という意識をもち，「自分たちで課題を見つけて解決していく学習」「友達と対話しながら問題を解決していく学習」等，子ども主体の授業を目指します。

このようなことを踏まえ，熊本市では，次のような取組をさらに充実させていきます。

- タブレットの活用
- ALTの配置の充実
- 協働して課題を解決していく授業の推進　など

そのため，　教師は，教えることに加え，子ども一人一人の学びが深まるようにコーディネートする役割を担います。

タブレットを活用した学習

ALTとの対話による学習

子どもが説明する学習

自分の考えを伝え合う学習

学校で学んだことが，明日，そして将来につながるように，子どもの学びが進化します。

文部科学省作成の保護者用
リーフレットが見られます。
「生きる力　学びの，その先へ」

先生主導の　　子ども主体の

「教えたい」を「学びたい」へ

～授業をステップアップさせる３Ｃ～

Change
Challenge
Chance

３つのポイント

①めあて
②対話（アウトプット）
③振り返り

ＩＣＴの効果的な活用

生徒指導の三機能による学級づくり

熊本市教育大綱
熊本市教育振興基本計画

授業づくり５つの視点

視点１　ねらいに迫る**めあて**
視点２　見通しと**振り返り**
視点３　**主体的な活動**
視点４　意欲を高め理解させる工夫
視点５　子どもを認め，生かす場面

学校訪問・公開授業等で見られた優れた実践

生きる力　～学びの，その先へ～　　新学習指導要領

「主体的・対話的で深い学び」

・一つ一つの知識がつながり，「わかった！」「おもしろい！」と思える授業
・見通しをもって，粘り強く取り組む力が身に付く授業
・周りの人たちと共に考え，学び，新しい発見や豊かな発想が生まれる授業
・自分の学びを振り返り，次の学びや生活に生かす力を育む授業

授業観・授業構造の改革

教　師：「教える」→「学びとらせる」

子ども：「教わる」→「学びとる」

これまでの活動（例）

・先生の話を聞く
・正解を出す
・板書を写す
・反復練習

これから必要とされる活動（例）

・課題を見出す
・解決のためのプロセスを考える
・正解のない課題に取り組む
・納得解を創り出す
・必要な情報を選んで活用する
・協働的に学習する

生徒指導の三機能を生かした学級づくり

子どもたち主体の授業を実践するには，学級の基盤づくり（生徒指導の三機能による学級の基盤づくり）が重要となります。

生徒指導の三機能

①自己存在感を与える
②共感的な人間関係
③自己決定の場を与える

子ども同士をつなげて学ばせる

安心して学べる「学びに向かう学習集団」とは？

1　自分の発言に対して意見や質問が返るなどの交流がある。
2　自分の考えを受け止めてくれる環境がある。
3　自分の考えをもつ場がある。

ポイント1　めあて

Change！

「今日のめあては〇〇です」からの脱却を！

「学びとる」授業は，子ども主体のめあての設定から始まります。
　心が揺さぶられたり，知的好奇心が刺激されたり，思わず立ち止まって考えたりするように導入を工夫し，子どもたち自ら課題（問題）意識をもって，めあての設定ができるようにしましょう。

1　興味・関心・意欲を喚起するために・・・

疑問・感動・驚き・困難・希望・意欲など、心の中に湧きだすような工夫した導入を行う。

なぜだろう？おかしいな？

不思議だな。驚いたな。

困ったぞ。
解決したいな。

調べたいな。
やってみたいな。

もっとできるようになりたいな。

2　見通しをもたせるために・・・

予想・仮説・解決方法・本時のゴールなどを，子どもたち自らが考え始めるような問いをする。

たぶん，こうなるんじゃないかな。

今日は何ができればいいのかな。

こうしたら，できるんじゃないかな。

3　必然性をもたせるために・・・

子どもたちが，自分の生活や将来とつなげた目標をもつような導入を行う。

これができると便利だ！
うまくできると楽しそう！

これができると役に立つぞ。

ポイント2　対話（アウトプット）

Challenge！

対話のコツは，子どもに任せて待つこと！

　対話のある授業は増えていますが，子どもたちが意見を共有したところで，教師がまとめてしまう場面をよく見かけます。
　大事なことは，そこから，子どもたち自身で共通点や相違点を見つけ，進んで考えを広げ深めていく過程です。
　課題解決に向けた質の高い対話が始まると，子どもたちは，互いの意見を聴き合うことが楽しくなるはずです。先生方も，魅力的な学習課題を準備したら，子どもたちに任せて待ち，予測を超えるすばらしい対話が生まれるのを楽しんでください。

1　対話を生むために・・・

授業のねらい達成につながり，子どもたちが，解決したい・知りたい・わかりたい・突き詰めたいと思えるような学習課題を設定する。

おもしろそう，知りたいな。
原因を突き詰めて調べたいな。

そんなこと普段考えたことなかったなあ。

困った，今まで習った方法では解決できないぞ。

人によって意見や考え方は違うんだなあ。

他の地域ではどうなっているのか調べないとわからないな。

2　対話力を育むために・・・

仲間づくりや子どもの学びの見取りについて，学校全体で協力しながら授業実践を行う。

どの授業でも対話ができるように取り組むぞ。

「わからない」って素直に言い合えるように仲間づくりをするぞ。

子どもの間違いをうまく生かす問い返しを他の先生にも聞きたいな。

子どもがどんなことを話していたか，他の先生に見てもらって，課題の検証をしたいな。

ポイント3　振り返り

振り返りは，成長の好機！　Chance！

　振り返りの必要性は感じていても，時間内に振り返りができなかったり，感想を言うだけの振り返りになっていたりする授業が多く見られます。
　客観的に自分自身の思考や活動を振り返ることができる否かは，今後の学習に取り組む態度に大きく影響してきます。先生方の振り返りの「問い方」が，学びの適正な自己評価につながり，これからの子どもたちの伸びを支えるものになります。

1　授業時間内に実施するために・・・

短時間でできる振り返りのバリエーションを増やす。

- ノートに書いた振り返りをタブレットで撮影して送信する。

- できた（解けた）理由やできなかった（間違えた）理由を書く。

- ポイントに沿った振り返りを伝え合う。

- 達成度を数値等で示し，その理由を簡潔に書く。

2　子どもの学習改善のために・・・

単元はじめや授業の導入，活動途中，単元末や授業の終末など，目的に応じた振り返りの場面を設定する。

導入

- 既習事項を確認する。

展開

- 自分の課題を見出す。

終末

- 学習内容を定着させる。新たな課題を見出す。

3　教師の指導改善のために・・・

評価項目に合わせた問い方をして，評価資料とする。（特に，「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては，有効な資料となる。）

効果的なICT機器の活用

教師によるＩＣＴ活用

課題や意見を共有できる。

わかりやすく提示できる。

具体的な学習活動を見せられる。

全体で発表や比較・分類できる。

全体で振り返ることができる。

子どもによるＩＣＴ活用

様々な方法で試行錯誤できる。

複数の情報をもとに調べられる。

自分たちで撮影・録画できる。

自分の考えを整理できる。

考えや資料をもとに話し合える。

自分の学びを振り返ることができる。

「主体的・対話的で深い学び」の実現

タブレット端末１人１台を整備したことによる「新しい学び」について

通常の授業等では・・・

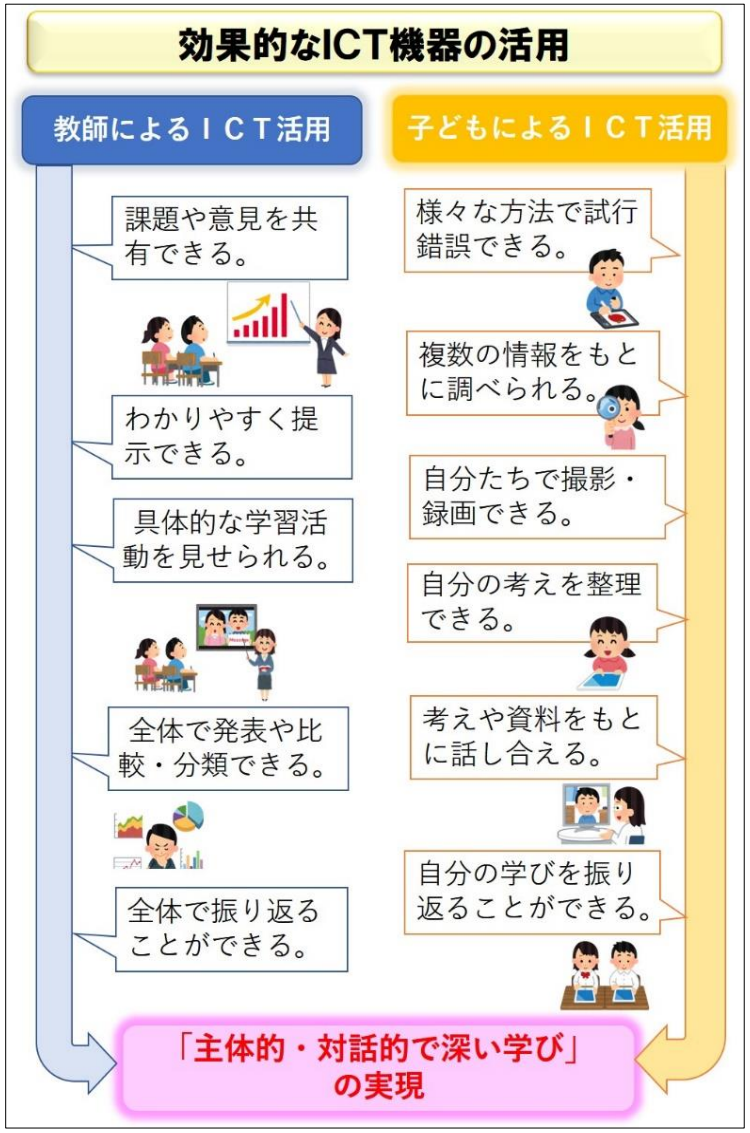
・日常の文房具として
　調べる、撮る、記録する、アウトプットする
　学び合いをするツールとしての活用

・いつでもどこでも必要なときに使える
　校外学習、修学旅行や見学旅行にも

・個人のペースに合わせた学習に
　ドリルバーク、ＡＩドリルQubenaの活用

１人１台の端末となることで、これまで以上に効果的に活用できる。

ただし、教師主体の授業から子どもが主体的、対話的に学んでいく授業への転換は継続的に図っていく必要はある。



タブレット端末１人１台を整備したことによる「新しい学び」について

家庭学習

タブレット端末の持ち帰りが基本となる。

・学校での授業と組み合わせた反転学習としての活用
・自主学習としての活用（ドリルパーク、 Qubenaの活用）

学びの個別最適化

不登校や感染症に対する不安さなどで勉強したくても学校に来れない児童生徒に対して、登校しなくても授業に参加したり、自分のペースに合わせて学習したりできる。

・オンラインによる授業動画の配信
・個別学習として活用（ドリルパーク、 Qubenaの活用）
・授業支援アプリによる双方向のやり取り（課題のやり取りも可能）

緊急時の対応

災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、全ての子どもたちの学びを保障できる。

・オンライン授業の展開（同一のＬＴＥタブレット端末の強み）
・新型コロナウイルス感染症の第２波、３波への対応